

日本気象学会 2014 年度秋季大会 出展・協賛・後援 企業・団体等一覧

今大会の開催にあたり，以下の企業・団体からご出展・ご協賛をいただきました（2014 年 8 月 25 日現在；50 音順）．厚く御礼申し上げます．（*は会場内に併設されるブースにて展示を行う予定の企業・団体です．）

＜出展・協賛＞

HPCシステムズ株式会社*

株式会社ニューテック*

日本無線株式会社*

日立パワーソリューションズ*

三菱電機特機システム株式会社*

＜協賛＞

英弘精機株式会社

株式会社朝倉書店

全日本空輸株式会社

日本気象学会 2014 年度秋季大会

会期：2014 年 10 月 21 日（火）～23 日（木）

会場：福岡国際会議場（福岡市博多区石城町）<http://www.marinemesse.or.jp/congress/>

大会実行委員会担当機関：福岡管区气象台，九州大学，福岡大学

大会委員長：隈 健一（福岡管区气象台長）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（福岡国際会議場4階小会議室407）

福岡国際会議場（代表 TEL：092-262-4111）

会場案内図



(1) 福岡空港からJR博多駅まで

【地下鉄】空港線：博多駅で下車，所要時間約6分・料金260円

(2) JR博多駅から会場（福岡国際会議場）まで …博多駅周辺地図参照

【バス】博多駅センタービル前Eのりば（地図中B地点）から乗車

- ① 路線名99番「博多埠頭行」：国際センターサンパレス前バス停で降車
- ② 路線名88番「中央埠頭行」：国際会議場サンパレス前バス停で降車
ともに所要時間約11分，料金230円，バス停から会場まで徒歩1～2分

【地下鉄】

- ③ 空港線：中洲川端駅で貝塚線へ乗換，貝塚線：呉服町駅で下車
所要時間約7分・料金200円（福岡空港から約13分・料金260円），
呉服町駅から会場まで徒歩約15分
- ④ 空港線：天神駅で下車
所要時間約6分，料金200円（福岡空港から約12分・料金260円），
天神駅からは（3）参照

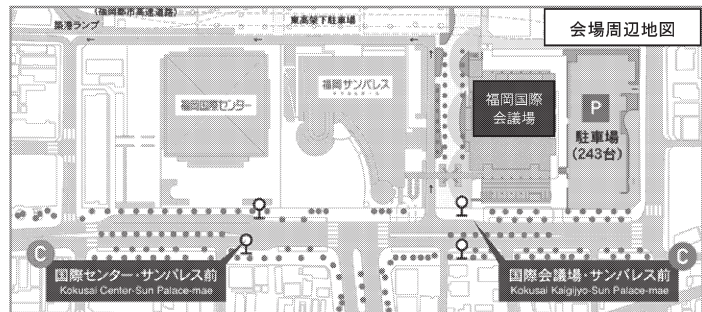
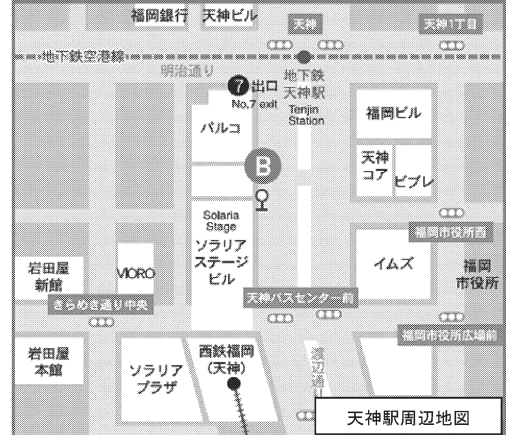
【タクシー】所要時間約10分，料金1,000円程度

(3) 地下鉄・西鉄天神駅から会場（福岡国際会議場）まで …天神駅周辺地図参照

【バス】ソラリアステージ前2Aのりば（地図中B地点）から乗車

- ⑤ 路線名80番「中央埠頭行」：
国際会議場サンパレス前で降車
所要時間約9分・料金190円，
バス停から会場まで徒歩1分程度

【タクシー】所要時間約6分，料金800円程度



大会行事予定

A 会場 : 中会議室 502・503 号室 (5 階) シンポジウム・授賞式会場 : 501 号室 (5 階)
 B 会場 : 中会議室 409・410 号室 (4 階) 受付 : 4 階ロビー (4 階)
 C 会場 : 小会議室 401・402・403 号室 (4 階) 大会事務局 : 小会議室 407 号室 (4 階)
 D 会場 : 小会議室 404・405・406 号室 (4 階) 懇親会 : 福岡サンパレス ホテル&ホール 2 階 (4 階)
 ポスター会場 : 中会議室 411・412 号室 (4 階) サンパレスルーム B

() 内は講演数と講演番号

		A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
10 月 21 日 (火)	09:45～ 12:30	熱帯大気・台風 (18, A101～A118)	スペシャル・セッション 「高速スキャニングレ ーダーによる激しい大 気現象の観測：現状と 将来展望」 (16, B101～B116)	大気放射 (9, C101～C109)	雲物理 (7, D101～D107) 11:00～ スペシャル・セッション 「日本の豪雨・豪雪と黒 潮」 (8, D108～D115)
	13:30～ 17:00	気候システム I (23, A151～A173)	スペシャル・セッション 「惑星大気科学の現在」 (18, B151～B168)	スペシャル・セッション 「温室効果ガス観測技術 衛星 GOSAT「いぶき」 の研究成果と今後」 (18, C151～C168)	スペシャル・セッション 「ハイパフォーマンス コンピューティングに よる超高精度メソスケ ール気象予測」 (19, D151～D169)
	17:00～ 18:00	ポスター・セッション (110, P101～P160)			
10 月 22 日 (水)	09:10～ 12:00	データ同化 (7, A201～A207) 10:20～ スペシャル・セッション 「室内実験で気象学」 (10, A208～A217)	降水システム (20, B201～B220)	中層大気 (13, C201～C213)	物質循環 (21, D201～D221)
	13:00～ 13:30	山本賞・正野賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:30～ 15:30	山本賞・正野賞・堀内賞・受賞記念講演			
	15:40～ 17:55	シンポジウム「惑星大気研究の最前線」 司会：中島健介 基調講演：田村元秀、はしもとじょーじ、今村 剛、高橋芳幸			
	18:10～ 20:10	懇親会			
10 月 23 日 (木)	09:10～ 11:30	気候システム II (13, A301～A313)	中高緯度大気・相互作用 (8, B301～B308) 気象教育 (5, B309～B313)	観測手法 (14, C301～C314)	大気境界層 (8, D301～D308) 大気力学 (6, D309～D314)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (110, P301～P360)			
	13:30～ 17:00	スペシャル・セッション 「全球降水観測計画 「GPM」コア衛星初期デ ータと新たな降水観測」 (16, A351～A366)	スペシャル・セッション 「南岸低気圧による大 雪：その要因、実態、予 測可能性」 (21, B351～B371)	スペシャル・セッション 「放射観測に関する気 象学・気候変動研究の進 展」 (16, C351～C366)	スペシャル・セッション 「大気－陸面間の水・エ ネルギー・炭素フラク スに関する最新研究 2014」 (11, D351～D361) 15:40～ スペシャル・セッション 「防災気象情報」 (7, D362～D368)

発表件数：552 件（口頭発表 332，ポスター 220）

口頭発表の講演・質疑時間：6 分と 2 分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会（e-mail: kouenikaku2014a@mri-jma.go.jp）まで。

大会参加費・懇親会費

大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	—
講演者 B	5,000 円	—
聴講者	3,000 円	4,000 円

- 講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

- 講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	4,500 円

支払方法

- 講演者の参加費の支払い方法は前納のみとなっており、既に受付は締め切られています。
- 懇親会費及び聴講者の参加費を前納する場合は、大会ホームページにて 2014 年 8 月 19 日（火）までにお支払下さい（郵便振替の場合は 2014 年 8 月 12 日（火）まで）。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

領収書

- 領収書は参加者本人の名義で、大会当日受付にて名札と一緒に手渡される予定です。
- 名義の変更が必要な場合には再発行が可能ですので、大会当日受付にてお申し出下さい。

その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員の方も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます。

講演の方法

口頭発表（スペシャル・セッションを含む）

- 一般口頭発表の講演 1 件あたりの持ち時間は 8 分（講演 6 分・質疑 2 分）です。
- スペシャル・セッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演には PC プロジェクターを使用できます。
- 講演にあたり、予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をとることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦 210 cm × 横 90 cm 程度となっています。
- ポスターの掲示には画紙・ピンが使用できますが、テープ類は使用できません。これらは発表者自身で準備してください。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。会場の都合上時間厳守をお願いします。
 - ✓ 第 1 日の発表者は 10 月 21 日 13:00～18:00
 - ✓ 第 3 日の発表者は 10 月 23 日 09:00～13:00
- ポスター会場での機器の使用は、講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

保育施設の紹介について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を行います。利用施設と補助金額は下記の通りです。

利用施設：

「福岡リトルワールドごおん園」 (<http://little-world.jp/gion>)
 「にこしてつ保育園ピコラン薬院」 (<https://picoran.jp/>)

補助金額：

保育に要した費用（保育施設利用料＋交通費上限1000円）の 3分の2。

利用を検討されている方は、お気軽に下記担当者にご連絡ください。

連絡先： 川野 哲也（九州大学大学院理学研究院）

E-mail：hoiku2014@geo.kyushu-u.ac.jp

TEL：092-642-2676

シンポジウム「惑星大気研究の最前線」

日時：大会第2日（10月22日〔水〕） 15:40～17:55

会場：福岡国際会議場（福岡市博多区石城町2-1）

司会：中島健介（九州大学）

※シンポジウムの聴講は無料です。一般の方も参加できます。

趣旨

かつて惑星は夜空の「動く星」に過ぎませんでしたが、観測技術の発展と探査の実現を経た現在、それぞれの環境と歴史を有する地球と同等の「世界」として認識されています。その大気の成り立ちや、そこに見られる現象の探求から生まれた「惑星気象学」も、高度に発展するとともに幅広い問題と繋がりを持つに至っています。大気運動の多様性は地球流体力学に新しい問題意識を提供しており、大気の組成や量の多様性は、その太陽系全体の形成や進化に関する考察に繋がっています。探査も各惑星で進展しており、特に火星では質量とも充実した探査が数値モデリングの高度化を促し、地球と同様のデータ同化も行なわれています。金星も、来年末に金星周回軌道に到達する日本の「あかつき」による本格的な大気探査を控えています。こうした太陽系惑星研究の蓄積を待っていたかのように、1995年、ついに太陽系外惑星の存在が実証されました。20年目の現在、確認された系外惑星は1000個をこえ、その多様性は我々の太陽系内の諸惑星を遥かに上回る一方、生命の想定も可能な「第二の地球」も見いだされつつあります。今回のシンポジウムでは、太陽系外惑星も含めて急速に視野を広めつつある惑星大気研究の最前線を提示し、今後を展望します。参加される皆様には、併せて、「地球気象学」の位置と果たし得る役割について思いを巡らせて頂ければ幸いです。

基調講演

「太陽系外惑星一発見20年で見てきたもの」
「水惑星の形成と進化」
「『あかつき』と今後の惑星探査」
「惑星大気モデリング探査・系外惑星をにらんで」

田村元秀（東京大学）
はしもと じょーじ（岡山大学）
今村 剛（JAXA）
高橋芳幸（神戸大学）

総合討論

スペシャル・セッションの概要紹介

高速スキャンングレーダーによる激しい大気現象の観測：現状と将来展望

日時：大会第1日（10月21日）09:45～12:30

場所：B会場

趣旨：近年、竜巻・局地的大雨・落雷といった激しい大気現象による災害が報告されている。たとえば2012年5月6日につくば市周辺で発生した竜巻は1名の死者を出した。これらの現象は積乱雲によってもたらされ、しばしば短時間で急発達する。これらの現象のメカニズムを解明し、探知・短時間予測を実現されるためには、従来のレーダーよりも観測間隔の短い高速スキャンレーダーが必要である。本スペシャルセッションは、最近よく取り上げられている高速スキャンレーダーに焦点を当て、最新の観測技術、事例解析、さらに運用について情報交換を行うことを目的として、以下のテーマを取り上げる。

- (1) 高速スキャンレーダーに関する最新技術：フェーズドアレイ、セクタスキャン、レーダーネットワーク等
- (2) 高速スキャンレーダーによるこれまで捉えられなかった積乱雲の発生発達・内部構造など様々な事例解析
- (3) 雲内の放電3次元分布など、高速スキャンレーダーで得られた積乱雲の3次元全体像と他の観測データとの

組み合わせによる更なる発展性

- (4) 高速スキャンレーダーで捉えた激しい大気現象の探知・短時間予測・データ同化の将来計画

世話人：楠 研一（気象研）、牛尾知雄（阪大）、佐藤晋介（NICT）

日本の豪雨・豪雪と黒潮

日時：大会第1日（10月21日）11:00～12:30

場所：D会場

趣旨：日本では、梅雨前線に伴う豪雨、台風に伴う暴風雨、日本付近で急発達する爆弾低気圧に伴う豪風雨・豪風雪、およびそれらによる災害が毎年のように発生しており、これらの豪雨・豪雪の予測精度の向上が重要な課題となっている。最近の研究で、日本周辺の海洋がこれらの大気擾乱に与える影響について知見が集積されてきた。本セッションでは、これらの豪雨・豪雪や、原因となる大気擾乱について、日本周辺の海洋の影響、特に黒潮・黒潮主流の影響に着目して、様々な観点から検討したい。まとまった研究のほか、萌芽的研究、現実的な調査・研究、若手による研究の発表も歓迎する。

世話人：児玉安正（弘前大学大学院理工学研究科）、万田敦

昌(長崎大学大学院水産), 茂木耕作(海洋研究開発機構), 津口裕茂(気象庁気象研究所), 川村隆一(九州大学大学院理学研究院), 中村 尚(東京大学先端科学技術研究センター)

惑星大気科学の現在

日時: 大会第1日(10月21日) 13:30~17:00

場所: B会場

趣旨: 20世紀後半に, 太陽系諸惑星の大気現象の考察することから出発した惑星大気科学は, 各惑星の探査の進展, 数値モデリングの本格化, 地球流体力学の理論の深化, 太陽系・惑星進化との関わり認識を経て多方向に発展してきたが, 現在, 数百年を超える太陽系外惑星の発見を迎えて, さらに対象と問題意識を広げつつある。2014年度秋季大会ではシンポジウムとして「惑星大気研究の最前線」が企画されており, 惑星大気研究の現状と将来の概要について, 基調講演が行なわれる予定である。

当スペシャルセッションでは, このシンポジウムと補的な内容の幾つかの招待講演を設定し, 基調講演の限られた時間ではカバーできない広がりや深さにおいて, 惑星大気科学の到達点と将来の課題を展望する予定である。あわせて, 惑星大気に幅広くかかわる一般講演も募集し, 今後の研究の展開に向けた議論の契機としたい。

世話人: 高木征弘(京都産業大学理学部), 今村 剛(JAXA宇宙科学研究所), 高橋芳幸(神戸大学大学院理学研究科), 中島健介(九州大学大学院理学研究院)

温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」の研究成果と今後

日時: 大会第1日(10月21日) 13:30~17:00

場所: C会場

趣旨: 2009年1月23日に打ち上げられた温室効果ガス観測技術衛星 GOSAT「いぶき」は, 5年を過ぎた現在も順調に観測を続けている。これまでに, データ導出手法の改良や導出データの検証を通して GOSAT データの質の向上を図り, それを基に, 主要な温室効果ガスである二酸化炭素やメタンの濃度分布とその変動の把握, 地域別吸収排出量(収支)の推定と不確実性の低減に関する研究を実施してきた。本セッションでは, まず衛星やセンサーの稼働状況とプロダクトの提供・利用状況を紹介し, これまでの研究成果について発表を行う。さらに今後の GOSAT の運用計画や, GOSAT 後継機の計画についても対象とする。そのため, GOSAT の短波長赤外や熱赤外の観測データを利用した基礎・応用研究のみならず, 関連する地上・航空機観測や GOSAT 搭載の雲・エアロソルセンサデータの利用, データ同化・大気輸送モデル・炭素収支推定に関わる研究, さらに将来計画など, 幅広い分野にわたる発表を募集する。

世話人: 横田達也(国環研), 川上修司(JAXA), 今須良一(東大気海洋研), 中澤高清(東北大), 中島映至(東大気海洋研)

ハイパフォーマンスコンピューティングによる超高精度メソスケール気象予測

日時: 大会第1日(10月21日) 13:30~17:00

場所: D会場

趣旨: 2012年度気象学会秋季大会において, スペシャルセッション「次世代スパコンが拓く超高精度メソスケール気象予測」を開催し「京」に代表される次世代のスパコン利用を念頭において, メソスケール顕著現象の高精度予測と高解像度大気モデルを用いた基礎研究に関する当時の到達点と課題について確認した。HPCI 戦略プログラム分野3のサブ課題「超高精度メソスケール気象予測の実証」では, 「領域雲解像4次元データ同化技術の開発」, 「領域雲解像アンサンブル解析予報システムの開発と検証」, 「高精度領域大気モデルの開発とそれを用いた基礎研究」の3つの科学目標に沿って, 2011年から, 京の計算資源をメソスケール気象予測研究における科学的ブレークスルーとして活用するための研究を行ってきた。2012年10月のスパコン「京」の共用開始から約2年を経て, このセッションでは, 上記研究の進捗について報告するとともに, 他の計算機も含むハイパフォーマンスコンピューティングインフラでのメソスケール気象研究の現状と将来について議論したい。HPCI 戦略プログラム以外からの投稿も歓迎する。

世話人: 斉藤和雄(気象研究所/海洋研究開発機構), 露木義(気象研究所), 瀬古 弘(気象研究所/海洋研究開発機構), 木村富士男(海洋研究開発機構)

室内実験で気象学

日時: 大会第2日(10月22日) 10:20~12:00

場所: A会場

趣旨: 今年は, 瓜生道也先生(九州大学)の25回忌にあたる。瓜生先生は, 回転水槽実験装置を用いた気象学的な研究の第一人者であり, その後の室内実験研究の道を示した先駆者である。回転水槽実験などの室内実験は, コンピュータの発展とともに数値実験へと受け継がれながら, 現在でも観測や理論を検証するための科学的実験装置として多様性も増している。さらに, 可視化技術の進歩により, 実験結果の深い解析が可能になっている。装置製作や制御が手軽になったことによって, 教育現場などでのデモンストラクションとして利用も増えている。メモリアルにあたる今年, この九州の地で, 室内実験を用いた気象に関わる多種多様な実験が集まるセッションを開催し, 実験手法や解析方法の新技术の情報交換や議論が出来る場としたい。

世話人: 乙部直人(福岡大学理学部), 筆保弘徳(横浜国立大学教育人間科学部), 廣岡俊彦(九州大学大学院理学研究院), 中島健介(九州大学大学院理学研究院), 佐藤正樹(東京大学大気海洋研究所)

全球降水観測計画「GPM」コア衛星初期データと新たな降水観測

日時: 大会第3日(10月23日) 13:30~17:00

場所: A会場

趣旨: 全球降水観測計画「GPM(Global Precipitation Measurements)」は, 日米(JAXA/NASA)を中心とした各国宇宙機関の協力で進められている。日米共同開発の GPM 主衛星は, 2014年2月28日に種子島宇宙センターから打上げられた。本衛星には JAXA と情報通信研究機構

が開発した二周波降水レーダ（DPR）が搭載されている。熱帯降雨観測衛星 TRMM 搭載のレーダと同様の Ku 帯に固体降水にも感度を持つ Ka 帯を加えて、北緯 65 度から南緯 65 度までの降水の 3 次元観測を可能にする。GPM は、この DPR 観測を核に、マイクロ波放射計搭載のコンステレーション衛星（GCOM-W1 を含む）が連携し、ほぼ全球の降水を高頻度高精度で測定する計画である。本セッションでは、GPM 主衛星から得られた初期的なデータを検討する予定である。また GPM によって期待される新たな降水観測について議論し、より多くの気象研究および応用研究への有効利用を促進することを目的とする。

世話人：沖 理子（宇宙航空研究開発機構）、高藪 縁（東京大学大気海洋研究所）、中村健治（獨協大学）、井口俊夫（情報通信研究機構）、牛尾知雄（大阪大学）、青梨和正（気象研究所）

南岸低気圧による大雪：その要因、実態、予測可能性

日時：大会第 3 日（10 月 23 日）13:30～17:00

場所：B 会場

趣旨：平成 26 年 2 月 8 日から 9 日、そして 2 月 14 日から 16 日にかけて、急速に発達する南岸低気圧の接近に伴って関東甲信地方を中心に記録的な大雪となった。特に後者の事例では観測史上最深積雪を大きく上回る積雪が観測され、記録的な大雪となった。このため、山梨県全域が一時陸の孤島になり、交通障害や通常積雪のほとんどない地域でアーケード等の損壊、人身被害が多く発生した。

この記録的な大雪の要因としては、ブロッキングによる低気圧の動きの遅さ、南から多量の水蒸気の供給、下層の低温の維持が指摘されている。南岸低気圧に伴う降雪は珍しくないが、これほどまで顕著な大雪になったのはなぜか、メソスケールの降水・降雪系や環境場、降雪粒子にはどのような特徴があり、どのような特性の積雪になったのか、何が大雪につながる要因として重要なのか、そしてそれらは予測可能なのか、これらの課題について、調査結果を一堂に集め、全体的な共通認識を持つための議論をする場としたい。南岸低気圧による降雪全般についての話題提供を歓迎する。

世話人：中井専人（防災科学技術研究所雪氷防災研究センター）、荒木健太郎（気象庁気象研究所）、前多良一（気象庁気象大学校）

放射観測に関する気象学・気候変動研究の進展

日時：大会第 3 日（10 月 23 日）13:30～17:00

場所：C 会場

趣旨：気象学および気候変動研究における放射観測の目的は、大きく二つに分けることができる。一つは、大気・地球表面の放射エネルギー収支を評価することであり、もう一つは、放射観測を利用して、気温、水蒸気、雲、エアロゾルおよび微量気体等の大気に関する情報を得ることである。現在では、地上、船舶、航空機、人工衛星など、様々なプラットフォームから観測が行われている。放射観測に用いる波長も紫外域から可視、赤外、マイクロ波にまで及ぶ。取得されたデータは放射計算を用いた解析のみならず、数値予報モデルにおけるデータ同化や気候モデルによる計

算結果との比較、あるいは植物生態学における光合成の評価まで多様な分野で利用されている。また、新しい放射計や校正手法の開発により技術面においても進歩している。本セッションにおいては、放射観測が気象学および気候変動研究に対してどのように貢献してきたのか振り返り、また、今後の展望について議論する。

世話人：早坂忠裕（東北大学）、大河原望（気象庁）、高村民雄（千葉大学）、内山明博（気象研究所）、三枝信子（国立環境研究所）、藤谷徳之助（国立環境研究所）

大気－陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究 2014

日時：大会第 3 日（10 月 23 日）13:30～15:30

場所：D 会場

趣旨：大気境界層の中で発生する様々な現象には地表面からの水・熱・炭素循環（WEC 循環）が本質的な役割を果たしている。そのため、これまで世界各地にフラックスタワーが構築され、WEC 循環の時空間変動が明らかにされてきた。各種フラックスの観測値は実況監視の用途にとどまらず、リモートセンシングや全球・領域モデルの検証データとして使用されている。このことから、地上観測-リモートセンシング-数値モデルの相互補完の関係は WEC 研究において特に強いといえる。しかしながら、分野横断型の研究課題が多いために WEC 循環を扱う研究者が一同に会する機会は豊富ではなかった。

本分科会は、WEC 循環に関する観測・モデル・リモートセンシング研究について情報共有や新たな課題の創出を目的とする。昨年の秋季大会に行った「フラックス最新研究 2013」では気象学を専門とする研究者の他、農業気象学や生態学といったバックグラウンドを持つ多くの研究者からホットな話題を提供していただいた。本年も昨年に引き続き、フラックス研究に日頃携わる大学院生、若手研究者を中心に対象スケールや研究手法を問わずに最新の研究についての講演を募り、研究動向や今後の方向性を情報交換する機会としたい。

世話人：吉田龍平（東北大学院）、佐々井崇博（筑波大生命環境）、小谷亜由美（名大院生農）

防災気象情報

日時：大会第 3 日（10 月 23 日）15:40～17:00

場所：D 会場

趣旨：防災情報、防災気象情報とは何であろうか。近年、科学技術の進歩と災害の教訓などによって、防災情報も気象情報もめざましく高度化し、多様化してきている。

また、社会的なニーズの高まりを受け、気象庁や日本気象予報士会をはじめ様々な機関が、小学生から高齢者まで様々な機会をとらえて、気象講座や防災気象啓発に盛んに取り組み始めている。

このような情勢の中、このセッションでは、様々な立場から、災害時にどのように気象情報が利用されたのか（または、されなかったのか）といった事例や防災気象情報の教育啓発活動の取組事例などを発表していただき、その活用事例や課題等を明らかにするとともに、防災気象情報のより適切な利用や伝達、並びに防災啓発や防災教育に必要なこと（伝えるべきこと）などについて議論

を深める機会としたい。

世話人：岩田 修（日本気象予報士会）、金崎 厚（日本気象予報士会）、弘中秀治（宇部市役所）、永田統計（日本

気象予報士会）、中尾克志（日本気象予報士会）、難波良彰（日本気象予報士会）、荒川知子（日本気象予報士会）、岡留健二（日本気象予報士会）

研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

第 42 回メソ気象研究会

日時：2014 年 10 月 20 日（月）13:15～17:15

場所：九州大学西新プラザ（福岡県福岡市早良区西新2丁目16-23）<http://www.kyushu-u.ac.jp/university/institution-use/nishijin/infomap.htm>

テーマ：「メソ気象学・雲物理学における航空機利用」

内容：気象学において航空機は観測の重要なプラットフォームで、様々な目的に利用されている。今回のメソ気象研究会では、メソ気象学と雲物理学における航空機を利用した観測に焦点をあてて、現状はどのような利用がなされているのか、それはどのような新しい知見をもたらすのか、さらにこの分野の航空機利用にはどのような観測が期待されるのかを中心に、これまで航空機を利用した観測を行ってこられた方々から話題を提供していただく。米国では専用機による観測が行われており、台湾でも台風をターゲットとした航空機観測がルーチン的に近い形で行われるようになった。本研究会では台湾大学から航空機観測を実施している研究者を招待し、台湾での研究の現状を講演いただく。また国内の航空機を利用した観測研究の最先端にいる方々から話題を提供していただく。本研究会ではメソ気象学・雲物理学ではどのような観測の可能性と期待があるのかについて探っていききたい。

プログラム：

- 13:15-13:20 趣旨説明
- 13:20-14:00 Typhoon observations using aircrafts: DOTSTAR and beyond
Chun-Chieh Wu (National Taiwan University)
- 14:00-14:30 熱帯低気圧観測における航空機の利用
山口宗彦（気象研究所）
- 14:30-15:00 航空機観測の現状と課題ー雲物理からメソ気象までー
村上正隆（気象研究所）
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-15:45 無人航空機の民生利用における課題と展望
原田賢哉（独宇宙航空研究開発機構）
- 15:45-16:15 メソ気象研究用専用航空機への期待
上田博（名古屋大学地球水循環研究センター）
- 16:15-16:45 コメンテーターからの意見
佐藤正樹（東京大学大気海洋研究所）
篠田太郎（名古屋大学地球水循環研究センター）
- 16:45-17:15 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研究所）、小倉義光（東大気海洋研）

連絡先：坪木和久（名大地球水循環）

E-mail：tsuboki@rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp

「平成26年8月豪雨」に関する研究会（仮題）

日時：2014年10月20日（大会前日）17:30～19:30（メソ気象研究会の後）

場所：九州大学西新プラザ（福岡県福岡市早良区西新2丁目16-23）

内容：気象災害委員会とメソ気象研究会の共催研究会でプログラムはホームページ等でお知らせします（<http://meso.sakura.ne.jp/mesoken/index.html>）。

連絡先：藤谷徳之助（国立環境研究所地球環境研究センター内地球温暖化観測推進事務局）

E-mail：fujitani.tokunosuke@nies.go.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2014 年 10 月 21 日（火）（大会第 1 日）セッション終了後 2 時間程度

場所：B 会場

テーマ：「極域・寒冷域研究のこれから」

内容：2012 年 7 月にグリーンランド氷床表面の全面融解が初めて観測されました。また、2012/13 年の夏季には南極内陸部で氷床表面の融解の痕跡が初めて確認されました。こうした急激な気候変化をしつつある南北両極域に関する研究は、今後如何にあるべきでしょうか？今回の前半は、まずグリーンランド氷床表面の現状を青木さんに報告して頂きます。そして JAMSTEC や極地研で立案中の研究計画について猪上さんに紹介して頂きます。以上の講演を踏まえ今後の極域研究について参加者を交えて議論したいと思います。後半は、これからの極域、そして寒冷域の研究を担う大学院生に、ご自身の研究内容を紹介して頂きます。飛び入り参加も歓迎します。

プログラム：

1. 現在の知見から見える将来の極域研究
「グリーンランド氷床表面に関する最近の研究動向」
青木輝夫（気象研究所）
「両極における大型観測研究計画の動向」
猪上 淳（極地研究所/JAMSTEC）
2. 若手研究者による最近の極域・寒冷域研究
「東シベリアタイガ-ツンドラ境界域におけるメタン放出フラックスの観測」
新宮原諒（北海道大学）
「温位座標に基づく寒気質量の長期変化」
菅野湧貴（東北大学）
「南極における慣性重力波による多重圏界面の研究」
澁谷亮輔（東京大学）
「冬季東アジアに寒波をもたらす西太平洋パターンの維持メカニズム」
田中 翔（東京大学先端研）

連絡先：西井和晃（東京大学先端研）

E-mail：nishii@atmos.rcast.u-tokyo.ac.jp

統合的陸域圏研究連絡会

日時：2014年10月21日（火）（大会第1日）セッション終了後2時間程度

場所：C会場

テーマ：「陸域起源の微量物質と気候変動」

内容：陸域は様々なサイズや種類の微粒子を大気へ放出し、また大気からの沈着を受け取ることで気候システムに影響を与えています。黄砂などのダストや人為・生物起源の有機エアロゾルは、大気中の放射伝達や化学過程に影響を与えることが知られており、多くの研究が行われているところです。また最近話題のPM2.5のように健康影響が懸念されているものも含まれます。一方で、そのような陸域起源の微粒子については、生態学や農業科学の分野ではあまり重要性が認識されていないのが現状です。今回の研究連絡会では、陸域起源の微粒子に関する研究について2件の講演を行っていただき、議論を行いたいと思います（タイトルや講演者は変更になる場合があります）。

プログラム：

- 1) 陸域起源の微粒子と気候変動のモデリング
竹村俊彦（九大）
- 2) 全球エアロゾル輸送モデル（MASINGAR）を用いた気候研究等への活用について
眞木貴史，関山 剛，弓本桂也，大島 長，直江寛明（気象研），田中泰宙，小木昭典（気象庁）

世話人：伊勢武史（京大），市井和仁（JAMSTEC），大石龍太（極地研/東大 AORI），熊谷朝臣（名大），近藤雅征（JAMSTEC），佐藤 永（JAMSTEC），立入 郁（JAMSTEC）

連絡先：伊藤昭彦（環境研）

E-mail：itoh@nies.go.jp

地球観測衛星研究連絡会

日時：2014年10月23日（木）（大会第3日）セッション終了後2時間程度

場所：B会場

テーマ：「気象予報における衛星観測の役割」

内容：今回の地球観測衛星研究連絡会では、気象予報における衛星観測の役割について現状の紹介と今後の展望について、衛星観測と数値予報の観点から話題を提供していただきます。現在の気象予報は様々なデータが同化に用いられ、予報精度の向上に貢献しています。衛星観測データも、気象衛星「ひまわり」のみならず、様々な衛星による雲、水蒸気、気温などの観測データが利用されています。高度な数値予報業務は研究と表裏一体であり、研究者コミュニティが、その内容を良く理解し、研究成果を活かすことが重要です。また、このことが新たな科学的知見をもたらす、気象学の発展にもつながるものと考えます。どなたでも自由に議論に参加していただけますので、是非ご参集下さい。

話題提供者（予定）：

気象庁気象研究所 岡本幸三

「数値予報における衛星データの利用」

気象庁気象衛星センター 奥山 新

「次期静止気象衛星ひまわり8・9号の現状」

理化学研究所 三好建正

「データ同化の今後の展望」

世話人：早坂忠裕（東北大），中島 孝（東海大），別所康太郎（気象衛星センター）

連絡先：早坂忠裕（東北大学大学院理学研究科）

E-mail：tadahiro@m.tohoku.ac.jp

2015 年度春季大会の予告

2015 年度春季大会は、2015 年 5 月 21 日（木）～24 日（日）につくば国際会議場で開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは2015 年 2 月頃となる予定です。

大会第1日 【10月21日(火)】 9:45~12:30 口頭発表

A 会場

熱帯大気・台風

座長：寺尾 徹（香川大教育）

- A101 寺尾 徹（香川大教育） インド亜大陸北東部の平野部と丘陵域におけるTRMM降水量推定値の転倒
ます式雨量計による直接評価
- A102 遠藤 伸彦（JAMSTEC/RCGC） マレーシア国サラワク州におけるグリッド降水量の検証
- A103 伍 培明（JAMSTEC/DCOP） 2010年2月ジャワ島西部の山岳域における降雨の観測
- A104 安永 数明（富山大院理工） MJO発達期・衰退期における水平風による水蒸気輸送の効果
- A105 清木 亜矢子（JAMSTEC） 季節的な南東インド洋冷却とMJOとの関係
- A106 耿 驃（JAMSTEC） CINDY観測期間中に発生したMJO-1に伴う降水システムの構造
- A107 福富 慶樹（JAMSTEC） 中央太平洋上の対流圏下層の混合ロスビー重力波に対する南半球中緯度
からの強制
- A108 角 ゆかり（名大院環境） 全球観測データを用いた準二日振動のMSE収支解析

座長：久保田尚之（JAMSTEC）

- A109 久保田 尚之（JAMSTEC） 2013年台風30号はフィリピンに上陸した観測史上最強の台風だった
か？
- A110 北畠 尚子（気象研） 1980 年代の米軍航空機観測を用いたドボラック法の再調査
- A111 櫻木 智明（気象研） 北西太平洋における台風の急発達の統計調査
- A112 金田 幸恵（名大地球水循環） 水平解像度2kmの非静力学モデルを用いた狩野川台風(TY195822:
IDA)の再現実験（続報）
- A113 那須野 智江（JAMSTEC） 夏季西太平洋における台風発生事例の要因分析
- A114 吉岡 大秋（横浜国大） ALERA2を用いたPALAU2013で観測された台風4号発生・発達期の環境場の
特徴
- A115 嶋田 宇大（気象研） トロコイダル運動しているT1215の内部構造のレーダー解析
- A116 山口 宗彦（気象研） 2週先までの熱帯低気圧活動予報のスキルの全球マップ
- A117 奥 勇一郎（大阪市環科研） 台風1112号を対象とした経路アンサンブル実験
- A118 Hegde Anitha Kumari（九大院理） The moisture transport during Typhoon Man-yi through moisture
conveyor belt from Indian Ocean and South China Sea - a case study using WRF model

大会第1日 【10月21日(火)】 9:45~12:30 スペシャル・セッション

B 会場

高速スキャニングレーダーによる激しい大気現象の観測：現状と将来展望

座長：楠 研一（気象研）

- B101 下瀬 健一（防災科研） 高時空間分解能の3次元風速場推定に向けた変分法を用いた複数台ドップラーレーダーデータの解析手法の検証
- B102 鈴木 真一（防災科研） 2013年9月2日に埼玉県・千葉県で発生した竜巻の親雲のXバンドMPレーダーによる観測
- B103 佐藤 英一（気象研） Kuバンドレーダーで観測したシビア現象の解析：調布竜巻
- B104 道本 光一郎（ウェザー・サービス） 高密度四次元気象観測手法とそれに基づく防災情報提供に関する研究（概要）
- B105 佐藤 晋介（NICT） 2台のフェーズドアレイ気象レーダーによる対流雲の3次元風速場の観測
- B106 高橋 暢宏（NICT） フェーズドアレイ気象レーダーによる降水雲の3次元構造の短時間変化の初期解析
- B107 村田 健史（NICT） 科学クラウドを活用した3D降雨レーダーのリアルタイム3次元可視化
- B108 磯田 総子（NICT） フェーズドアレイ気象レーダーで観測された2012年7月26日に発生した複数の局地的大雨の特長

休憩

座長：牛尾知雄（阪大）

- B109 吉田 翔（気象工学） フェーズドアレイレーダーで捉えられた降水コアの特徴ー孤立型積乱雲の場合ー
- B110 楠 研一（気象研） フェーズドアレイレーダーによる竜巻等突風・局地的大雨探知のための研究計画
- B111 足立 透（気象研） フェーズドアレイレーダー観測データを用いた積乱雲内の渦の3次元解析処理の試み
- B112 吉田 智（気象研） 積乱雲の発達に伴う雲内電荷構造の変化
- B113 古本 淳一（京大生存研） PANDAによるレーダー・ライダー融合観測と400MHz帯ウインドプロファイラを用いた沖縄亜熱帯域の局所的大雨の微細構造の観測
- B114 水谷 文彦（東芝） フェーズドアレイ気象レーダーのアンテナパターン最適化
- B115 木田 智史（東芝） 二重偏波フェーズドアレイ気象レーダーの開発
- B116 菊池 博史（阪大院工） 二次元フェーズドアレイを用いた偏波観測精度の評価

総合討論

大会第1日 【10月21日(火)】 9:45～12:30 口頭発表

C 会場

大気放射

座長：佐藤可織（九大応力研）

- C101 内山 明博（気象研） 地上でのエアロゾル光学特性の連続観測（福岡と北京の比較）
- C102 石元 裕史（気象研） 赤外サウンダによる火山灰光学特性の推定
- C103 萩原 雄一郎（九大応力研） CloudSatとCALIPSOから求めた雲頂高度の違いについて（その3）
- C104 岡本 創（九大応力研） 衛星搭載アクティブセンサによる氷粒子の波長比と微物理特性の解析
- C105 田中 健太（九大院総理工） 衛星搭載雲レーダ・ライダー・赤外サウンダの複合利用による氷水量と過飽和度の解析
- C106 佐藤 可織（九大応力研） 衛星搭載アクティブセンサ複合解析手法の改良：下層雲への適用
- C107 牧野 利行（九大院総理工） 光学的に厚い下層雲の観測を目的とした多視野角・多重散乱ライダーの開発
- C108 岩渕 弘信（東北大院理） MODIS赤外バンドから推定した氷晶雲の統計的性質
- C109 竹岡 遼（奈良女子大院人間文化） 北極域における雲底高度と雲の放射強制力の関係

大会第1日 【10月21日(火)】 9:45～12:30

D 会場

9:45～11:00 口頭発表

雲物理

座長：鈴木賢士（山口大農）

- D101 田尻 拓也（気象研） 黄砂イベント時の大気エアロゾルの氷晶核能
- D102 村上 正隆（気象研） 大気エアロゾルの氷晶核能に関する研究
- D103 鈴木 賢士（山口大農） 沖縄集中観測キャンペーン2007-2014における成果とビデオゾンデによる雲微物理観測の可能性
- D104 端野 典平（中研環変） A Numerical study of the flow fields around falling ice crystals and the hydrodynamic torque
- D105 真木 太一（九大名誉教授） 愛媛県西条市・新居浜市付近での2013年12月27日の液体炭酸散布による人工降雨実験
- D106 岩田 歩（金沢大） 日本における花粉およびその抽出物の氷晶核能調査
- D107 山口 悟（防災科研） 降雪種と比表面積との関係

11:00～12:30 スペシャル・セッション

日本の豪雨・豪雪と黒潮

座長：茂木耕作（JAMSTEC）

- D108 松野 健（九大応力研） 東シナ海の黒潮と台湾暖流・対馬暖流
- D109 升永 竜介（東大先端研） 黒潮統流の十年規模変動が冬季の大気境界層に及ぼす影響
- D110 山内 晃（長大院水産環境） CloudSat-CALIPSO衛星データから導出された氷雲の広域特性解析
- D111 藤部 文昭（気象研） 日本の短時間強雨の年々変動と気温・海面水温変動との関係
- D112 山下 寛（福岡管区気象台） 2013年7月3日の福岡県の大雨
- D113 佐藤 笑（弘前大院理工） 東シナ海の黒潮付近で5月に観測された霧ー2013年と2014年の観測事例ー
- D114 平田 英隆（九大院理） CReSS-NHOESで再現された爆弾低気圧の発達に対する黒潮・黒潮統流域の果たす役割
- D115 加藤 輝之（気象研） つくば竜巻をもたらした下層水蒸気の蓄積過程における黒潮の影響

大会第1日 【10月21日(火)】 13:30~17:00 口頭発表

A 会場

気候システム I

座長：田中 翔（東大先端研）

- A151 渡部 雅浩（東大AORI）地球温暖化の加速と停滞（ハイエイタス）に対する自然変動の寄与
- A152 植田 宏昭（生命環境）モンスーン循環に見られる近年の気候ハイエイタスと温暖化予測
- A153 釜堀 弘隆（気象研）台風の最大風速と平均降水量の関係---衛星観測と再解析---
- A154 原田 やよい（気象研）質量重み付き等温位面上帯状平均法による角運動量収支を利用した大気大循環場解析
- A155 田中 翔（東大先端研）発達過程における西太平洋パターンのエネルギー収支解析
- A156 安成 哲平（GESTAR/USRA at NASA/GSFC）Atmospheric responses caused by snow darkening effect over Eurasia from spring to summer
- A157 埴和 優一（岡大院教育）広域場の季節進行の中でみた10月頃の日々のシベリア高気圧の季節的発達
- A158 濱木 達也（岡山大院教育）冬から春にかけての日々のシベリア高気圧の季節的な衰退過程に関する解析(その2)
- A159 瀧川 優実（岡大・教育・理科）ヨーロッパと東アジアにおける日々の気象気候系と広域場の季節サイクルに関する比較気候学的研究（第一報）
- A160 森 正人（東大大気海洋研）近年頻発しているユーラシアの寒冬に対する北極海海水の影響
- A161 塩竈 秀夫（環境研）米国南西部における2013年6-7月熱波に関するイベント・アトリビューション
- A162 林 未知也（東大大気海洋研）2014年に起きた2度の西風イベントによる海洋場への影響
- A163 稲津 将（北大院理）非定常揺動散逸定理を用いた冬季成層圏循環の予測可能性の解析

座長：加藤雅也（名大地球水循環）

- A164 今北 詠士（自然災害リスク研究グループ）気候変動による洪水リスク評価の取組みについて～その1：荒川流域における流量の再現実験～
- A165 加藤 雅也（名大地球水循環）気候変動による洪水リスク評価の取組みについて ～ その2: 解析雨量と CReSS の期間最大降水量の検証 ～
- A166 日下 博幸（筑波大学計算科学）アンサンブル気候実験手法を用いた都市降水の研究と今後の課題
- A167 今田 由紀子（気象研）統計的ダウンスケーリングを用いた局所的な豪雨に対するイベント・アトリビューション（要因分析）の試み
- A168 栗原 和夫（気象研）地域気候モデルの現在気候再現実験における梅雨期の低気圧中心の日本周辺での分布
- A169 島田 照久（東北大院理）オホーツク海と日本周辺域における夏季の雲分布の二つのレジーム
- A170 高橋 庸哉（北教大）札幌市とその近郊での10℃を超える気温差について～ヒートアイランド現象ですべて説明しうるか？
- A171 稲津 将（北大院理）北海道における夏季気候変動に関するマルチGCM×マルチRAM実験による力学的ダウンスケーリング
- A172 葛西 光希（北大院情報）メソ気象モデルWRFを用いた北海道留萌地方の局地風に関する考察
- A173 安藤 雄太（三重大院生物資源／極地研）大気循環と日本周辺の海面水温が日本の気候に与える影響～秋から冬への変遷期～

大会第1日 【10月21日(火)】 13:30～17:00 スペシャル・セッション

B 会場

惑星大気科学の現在

座長：高木征弘（京産大・理）

- B151 神山 徹（産総研）金星雲層高度における惑星規模大気波動の鉛直伝搬性について
- B152 高木 征弘（京産大・理）金星大気スーパーローテーションの維持メカニズムについて
- B153 山本 勝（九大応力研）厚い雲に覆われた地球型惑星大気循環の感度実験
- B154 高木 聖子（東海大TRIC）金星上部もや層の研究
- B155 佐川 英夫（京産大）ミリ波・サブミリ波を利用した金星上層大気の観測
- B156 池川 慎一（北大環境科学院）金星雲画像を用いた多数枚による風速推定の研究
- B157 安藤 紘基（宇宙科学研究所）金星大気の電波掩蔽観測のこれから

座長：高橋芳幸（神戸大院理）

- B158 荻原 弘堯（北大院理）火星ダスト巻き上げスキームの DCPAM への実装及び地表面ダストフラックス診断実験
- B159 野口 克行（奈良女子大研究院自然）火星大気CO₂凝結を考慮した電波掩蔽観測データの再導出
- B160 小高 正嗣（北大理）初期火星大気中の主成分凝結対流の二次元数値実験－雲分布の凝結核数混合比に対する依存性－
- B161 小高 正嗣（北大理）着陸機による探査のための火星表層環境評価
- B162 杉山 耕一郎（宇宙研）雲解像モデル CReSS の火星大気への適用: 混合長の取り扱い

座長：中島健介（九大院理）

- B163 杉山 耕一郎（宇宙研）木星大気の雲対流と大気構造
- B164 今村 剛（宇宙研）惑星大気と太陽大気の対流
- B165 佐々木 洋平（京大院理）高速回転する薄い球殻中の対流により引き起こされる表層の帯状流
- B166 新田 光（東大・理）地球型水惑星の地表水分分布と暴走温室限界
- B167 石渡 正樹（北大理）同期回転惑星の大気循環における雲の効果に関する数値実験
- B168 大西 将徳（神戸大院理）系外惑星大気の3次元計算のための放射モデル開発

総合討論

大会第1日 【10月21日(火)】 13:30~17:00 スペシャル・セッション

C 会場

温室効果ガス観測技術衛星GOSAT「いぶき」の研究成果と今後

座長：今須良一（東大大気海洋研）

- C151 横田 達也（環境研） 温室効果ガス観測技術衛星GOSAT「いぶき」の現状と今後
- C152 塩見 慶（JAXA） GOSAT後期利用における現状と試みーL1処理と運用
- C153 菊地 信弘（環境研） 拡散板とサンプリング観測によるGOSAT TANSO-FTS SWIR偏光感度の軌道上校正
- C154 吉田 幸生（環境研） GOSAT TANSO-FTS SWIR L2 カラム量プロダクトー次期バージョン（V03）へ向けた検討 その 2ー
- C155 森野 勇（環境研） TCCON (Total Carbon Column Observing Network)の現状と今後
- C156 井上 誠（環境研） 航空機観測データを用いたGOSATプロダクトの検証ーバイアスのパラメータ依存性とその補正手法の検討ー
- C157 阿保 真（首都大システムデザイン） つくばにおける1.6 μ m DIALと航空機の同時CO₂鉛直分布観測

座長：川上修司（JAXA/EORC）

- C158 染谷 有（東大大気海洋研） FTS-Band4データを用いた雲・ダストエアロゾルの検出と高度推定
- C159 今須 良一（東大大気海洋研） ロシア水文気象環境監視局の航空機による気体、粒子状物質の検証観測
- C160 片岡 文恵（RESTEC） 航空機搭載S-HISデータ、および海面水温を用いたTANSO-FTS熱赤外バンドの評価
- C161 齋藤 尚子（千葉大CEReS） GOSAT/TANSO-FTS TIRバンドの新バージョンCO₂、CH₄プロダクトのデータ質について
- C162 大山 博史（名大STE研） GOSAT熱赤外および短波長赤外H₂Oカラム平均濃度の比較

座長：横田達也（環境研）

- C163 マクシェーフ シヤミル（NIES） Inverse model for estimation of the surface CO₂ fluxes at grid scale resolution with GOSAT data
- C164 丹羽 洋介（気象研） トップダウン・アプローチによるCO₂フラックス推定の高解像度化に向けて
- C165 眞木 貴史（気象研） 衛星観測データのバイアスがCO₂データ同化に与える影響
- C166 高木 宏志（環境研） Impact of Differences in Spatial Coverage of Multiple GOSAT-Based CO₂ Data on Regional Flux Estimates
- C167 石澤 みさ（環境研） Inter-annual variability in CO₂ exchange in Northern Eurasia inferred from GOSAT-XCO₂
- C168 市井 和仁（JAMSTEC） GOSAT L4Aプロダクトと種々のボトムアップ手法の陸域炭素フラックスの比較

総合討論

大会第1日 【10月21日(火)】 13:30～17:00 スペシャル・セッション

D 会場

ハイパフォーマンスコンピューティングによる超高精度メソスケール気象予測

座長：露木 義（気象研）

- D151 齊藤 和雄（気象研） HPCI戦略プログラム「超高精度メソスケール気象予測の実証」（2）
- D152 青梨 和正（気象研） 雲解像モデル用のNeighboring Ensembleに基づく変分法同化法（その3）
- D153 横田 祥（気象研） 二重偏波レーダーで推定した雨水量の同化実験－2012年5月6日に関東地方で発生した竜巻の事例について－
- D154 黎 徳（JAMSTEC） Towards a hybrid variational-ensemble data assimilation system at cloud resolving scales

座長：瀬古 弘（気象研）

- D155 国井 勝（気象研） 水平解像度100mのNHMを用いた30秒サイクルデータ同化実験
- D156 前島 康光（理研計算科学） 2008年7月28日に神戸市付近で発生した局地的豪雨の観測システムシミュレーション実験
- D157 大塚 成徳（理研計算科学） 100m解像度の領域モデルによる積雲対流のブリーディング実験
- D158 黒田 徹（JAMSTEC） インクリメンタル化可能なLETKF解析を用いた2011年7月梅雨期の予報実験
- D159 国井 勝（気象研） アンサンブルカルマンフィルタを用いた台風の強風半径同化実験

座長：齊藤和雄（気象研）

- D160 瀬古 弘（気象研） アンサンブル予報結果による九州北部豪雨の要因の抽出の試み
- D161 陳 桂興（東北大院理） 京コンピュータによる仙台市街区の海風前線侵入の超高解像度数値実験：2007年6月19日10時の事例
- D162 折口 征二（気象研） 雲解像アンサンブル実験による2012年台風第15号の多重壁雲構造と風速特性
- D163 大泉 伝（JAMSTEC） スーパーコンピュータ「京」とNHMを用いた伊豆大島の豪雨の高解像度予報実験
- D164 坪木 和久（名大地球水循環） 台風に伴う竜巻の雲解像モデルを用いた直接計算による予測の試み

座長：木村富士男（JAMSTEC）

- D165 伊藤 純至（東大大気海洋研） 台風全域LES
- D166 佐藤 陽祐（理研計算科学） 広領域・高解像度 LES による層積雲から積雲への遷移過程の再現実験
- D167 益子 渉（気象研） 超高解像度数値シミュレーションによる竜巻の詳細構造の解析（第2報）
- D168 橋本 明弘（気象研） 多次元ビン法NHMの開発－雲核2 成分系の導入－
- D169 中村 晃三（JAMSTEC/DSEP） 運動学的ドライバーを使ったビン法雲微物理モデルの比較実験（その2：2次元の場合）

大会第2日 【10月22日(水)】 9:10～12:00

A 会場

9:10～10:15 口頭発表

データ同化

座長：寺崎康児（理研計算科学）

- A201 小田 真祐子（気象研） 台風進路予報向上のための全球モデル用のアンサンブルに基づく変分法同化法の開発（その2）
- A202 寺崎 康児（理研計算科学） 全球非静力学モデルNICAMを使った局所アンサンブル変換カルマンフィルタLETKF
- A203 近藤 圭一（理研計算科学） 10240メンバーによるアンサンブルデータ同化実験
- A204 榎本 剛（京大防災研） TRMM PRブライトバンド高度の同化実験
- A205 上清 直隆（気象研） ハイパースペクトルサウンダーAIRSの雲域データ同化実験
- A206 大塚 道子（気象研） MTSAT-1Rによるラピッドスキャンデータのメソスケールデータ同化への利用
- A207 石橋 俊之（気象研） 4次元の背景誤差共分散行列を使った4D-Varによるアンサンブル生成と決定論的解析

10:20～12:00 スペシャル・セッション

室内実験で気象学

座長：筆保弘徳（横浜国大）

- A208 宇加治 一雄（無所属） 回転水槽実験の先達一瓜生さんを偲んでー
- A209 乙部 直人（福大理） 回転水槽実験ーバシレーションの解析ー
- A210 筆保 弘徳（横浜国大） 粒子画像流速測定法と渦運動エネルギーを用いた回転水槽実験で発生する傾圧不安定波の定量化
- A211 三村 和男（東海大自然環境） 室内実験による発見的研究 ～ブロッキング現象に関連して～
- A212 佐藤 正樹（東大AORI） 気象室内実験制作による教育・研究

座長：乙部直人（福大理）

- A213 山本 哲（気象研） 温室効果気体の演示／実験概観
- A214 鈴木 秀士（名大院工） 光誘起超親水化チタン酸化物微粒子の人工氷晶核への検討
- A215 佐々 浩司（高知大理） 何もない平面上に竜巻を再現する工夫
- A216 伊賀 啓太（東大大気海洋研） 円筒容器内で回転する水に生じる諸現象とその理解のための力学
- A217 田中 雅士（九大院理） 融解する氷塊の自発的回転

大会第2日 【10月22日(水)】 9:10～12:00 口頭発表

B 会場

降水システム

座長：山内 洋（気象研）

- B201 岩波 越（防災科研） 積乱雲の一生の観測計画IIー積乱雲発達の早期予測に向けてー
- B202 山内 洋（気象研） 2014年6月24日東京に降雹をもたらした積乱雲の二重偏波レーダー解析
- B203 増田 有俊（京大院工） 偏波レーダ観測値を用いたZDR Columnの存在する孤立積乱雲の特徴解析
- B204 山田 芳則（気象研） 2つの積乱雲の併合過程の解析
- B205 岩崎 博之（群馬大教育） 2種類の10秒雨量データを使った発達した対流セルの微細構造
- B206 竹見 哲也（京大防災研） 濃尾平野における夏期局地降水の出現特性と環境場
- B207 清野 直子（気象研） 首都圏の夏季降水に対する都市の効果（3） 一日降水量に顕著な違いが見られた事例についてー
- B208 馬場 雄也（JAMSTEC） 雲解像モデルを用いた積雲対流スキームの改良
- B209 二宮 洸三（無所属） 降水帯のmeso- β -scale降水系
- B210 江原 正彦（高知大院応用自然） 斜面ストリーク型降水システムのモデル解析

座長：柳瀬 亘（東大大気海洋研）

- B211 的場 徹（九大院理） 2013年3月に先島諸島付近で発生したニンジン状雲の数値シミュレーション
- B212 高咲 良規（立正大院地球環境） バックビルディング型メソ対流系の形成機構ー平成20年8月末の岡崎豪雨事例ー
- B213 岡田 靖子（京大防災研） RCPシナリオにおける梅雨期の降水の将来変化
- B214 柳瀬 亘（東大大気海洋研） JRA-55を利用した日本海のPolar Lowのトラッキング
- B215 廣川 康隆（仙台管区气象台） 2013年12月19-20日に日本海で発生・発達したメソ渦～その2：エネルギー収支解析～
- B216 栃本 英伍（東大大気海洋研） 竜巻大発生を伴う温帯低気圧の構造と環境場ーコンボジットした環境場における理想化実験ー
- B217 藤田 彬（新潟大院自然） 新潟市で竜巻が発生した2010年12月3日の総観場の解析
- B218 諸田 雪江（ウェザー・サービス） 雲解像モデルを用いた雷シミュレーションにおける中和過程の検討（その2）
- B219 飯田 友（琉球大院理工） 雷雲内粒子のダイナミクスシミュレーション
- B220 岩崎 博之（群馬大教育） 落雷エネルギーに注目した全球落雷気候学

大会第2日 【10月22日(水)】 9:10～12:00 口頭発表

C 会場

中層大気

座長：坂崎貴俊（京大生存圏研）

- C201 中村 東奈 (富士通FIP) リオ・ガジェゴス (アルゼンチン) 上空における2009年11月の長期間のオゾン全量低下についてー波動活動および化学場の影響ー
- C202 門脇 正尚 (環境研) 冬季南半球中高緯度の波動活動と南極オゾンホール規模との関係II
- C203 富川 喜弘 (極地研) 南極昭和基地における2013年水蒸気ゾンデ観測
- C204 平野 創一朗 (東大院理) 南半球成層圏の極渦消滅 (最終昇温) 期の年々変動の解析
- C205 木下 武也 (NICT) 南半球中高緯度域のプラネタリー波及び総観規模擾乱の3次元構造に関する研究
- C206 直江 寛明 (気象研) 波数2型の成層圏突然昇温と成層圏対流圏力学結合
- C207 小寺 邦彦 (名大STE研) 成層圏惑星規模波の反射がユーラシア大陸上のブロッキングに及ぼす影響:2012年冬の事例を中心として
- C208 柴田 清孝 (気象研) 化学 - 気候モデルによる温度とオゾンのソーラシグナル: SSTとGHGsは変化するが太陽は一定の条件
- C209 Liu Huixin (九大理) 高度500kmまでの大気上下結合: 成層圏突然昇温に対する超高層大気変動
- C210 坂崎 貴俊 (京大生存圏研) 高分解能GCMデータを用いた太陽非同期潮汐の解析
- C211 谷田貝 亜紀代 (名大STE研) 熱圏中性風循環場の太陽フレア活動応答: ファブリ・ペロー干渉計から見た大気潮汐への影響
- C212 今井 弘二 (JAXA) Cross-Cutting Comparisons (C3) ～太陽地球環境の総合理解に向けたウェブサービス～
- C213 大羽田 剛史 (九大院理) Aura EOS/MLSによる熱帯域半年周期振動の変動について

大会第2日 【10月22日(水)】 9:10～12:00 口頭発表

D 会場

物質循環

座長：板橋秀一（電中研）

- D201 田中 慶太（京大院農） 北海道におけるカバノキ属空中花粉の飛散動態
- D202 中原 勇希（東京理科大院理） 東京神楽坂上空におけるエアロゾル体積濃度分布について
- D203 大田 彩乃（奈良女子大院人間文化） 東アジア域における視程の季節変動に関する研究
- D204 板橋 秀一（電中研） 東アジア域における硫黄化合物の収支解析
- D205 酒井 哲（気象研） 佐賀のライダーとスカイラジオメータによって検出された桜島の火山灰の高度分布と光学特性
- D206 阿保 真（首都大システムデザイン） インドネシア・ケルット火山噴火による火山性成層圏エアロゾルの赤道におけるライダー観測
- D207 関谷 高志（名大院環境学） 大規模火山噴火後の成層圏硫酸エアロゾルの微物理モデリング
- D208 五藤 大輔（環境研） アジア域における硫酸塩エアロゾル分布に対するホストモデルの不確実性評価
- D209 河合 慶（名大院環境） モンゴル国ダランザドガドにおけるアジアダストのシーロメーター観測：2014年4月のダストイベントの事例解析
- D210 當房 豊（極地研） 北米の農地由来の土壌ダストの氷晶核としての機能の評価

座長：佐伯田鶴（JAMSTEC）

- D211 渡邊 明（福島大院理工） 放射線強度の鉛直分布
- D212 石戸谷 重之（産総研） 東京ー南鳥島間上空における大気中酸素濃度の変動
- D213 平野 竜貴（防衛大地球海洋） 東京都心の二酸化炭素排出に関する観測的研究
- D214 佐伯 田鶴（JAMSTEC） Carbon flux estimation by using ACTM for the period 1990－2011
- D215 宮崎 和幸（JAMSTEC） 衛星観測データ同化による雷室素酸化物生成量の推定
- D216 辻 健太郎（気象庁環境気象） 気象庁 紫外線情報の高度化に向けた気象研究所化学輸送モデルの精度検証
- D217 池上 雅明（気象庁環境気象） 気象庁 全球・領域大気汚染気象予測モデルシステムの検証結果について
- D218 内野 修（環境研） オゾンDIALの連続観測によって見られた下部対流圏オゾンの変動
- D219 長澤 親生（首都大システムデザイン） 赤道域対流圏界面領域のDIALによるオゾン鉛直分布測定
- D220 秋吉 英治（環境研） 100年定常実験による温暖化条件下での北半球中・高緯度域のオゾン層破壊
- D221 須藤 健悟（名大院環境） 化学・エアロゾル気候モデルによる全球窒素沈着シミュレーション

大会第3日 【10月23日(木)】 9:10～11:30 口頭発表

A 会場

気候システムⅡ

座長：新藤永樹（気象研）

- A301 納多 哲史（京大院理） 地球システムモデルにおけるオゾンの取り扱いが古気候に与える影響：
完新世中期の南極
- A302 釜江 陽一（環境研） マルチパラメータ・マルチ物理アンサンブルにおける気候感度の不確実性と
その制約
- A303 新藤 永樹（気象研） 気象研究所全球気候モデルの熱帯海洋上の比湿プロファイルのバイアスにつ
いて(2)
- A304 川合 秀明（気象研） MRI-CGCM3の雲フィードバックの解析
- A305 清木 達也（JAMSTEC） 2モーメントバルク法雲微物理モデルによる巻雲の雲放射強制力フィー
ドバックの改善
- A306 河本 和明（長大環境） 95-GHz レーダ反射率と水雲特性の頻度分布の関係
- A307 尾瀬 智昭（気象研） CMIP5海面水温にもとづく気象研20kmAGCM温暖化実験の水収支
- A308 楠 昌司（気象研） 全球大気モデルMRI-AGCM3.2Sによる温暖化実験：東アジアの降水量変化
- A309 廣田 渚郎（極地研） CMIP5気候モデルにおける夏季北ユーラシア降水の日変動
- A310 早崎 将光（筑波大・生命環境系） CMIP5で再現された東アジア冬季モンスーンの季節進行とその
将来変化
- A311 若松 俊哉（気象庁気候情報） 熱帯循環の変化が冬季東アジアの定在波に与える影響
～線形傾圧モデルによるメカニズム解析～
- A312 阿部 学（JAMSTEC/ICCPR） 将来気候変化予測におけるユーラシアの積雪変化と大気循環への影
響
- A313 佐々井 崇博（筑波大院生命環境） 簡易型地球システムモデルを用いた数千年スケールの温暖化予
測

大会第3日 【10月23日(木)】 9:10～11:30 口頭発表

B 会場

中高緯度大気・相互作用

座長：佐藤尚毅（学芸大）

- B301 小守 信正（海洋機構APL） 全球大気海洋結合モデルを用いたアンサンブルデータ同化システムの開発
- B302 吉岡 真由美（東北大院理） 台風の経路に大気海洋相互作用が与える変化
- B303 佐藤 尚毅（学芸大） 梅雨期の強い西風によって維持される黒潮続流域の水温勾配
- B304 岩崎 慎介（九大応力研） 夏季・瀬戸内海の海洋潮汐が駆動する下層大気の潮汐周期変動
- B305 築地原 匠（熊本大院自然科学） 日本付近で急発達した温帯低気圧に対する日本列島の影響
- B306 相澤 拓郎（筑波大院生命環境） Cyclone Phase Space 上に見られる北極低気圧の構造変化
- B307 門野 美緒（新潟大院自然） 北極域における極向きエネルギー輸送の長期変動について
- B308 緒方 香都（三重大院生物資源） 南極海氷が駆動するPSA類似モードの非対称性

気象教育

座長：若月泰孝（筑波大アイソ）

- B309 若月 泰孝（筑波大アイソ） 山中湖における霧の消散過程の観測：野外実験授業として
- B310 草薙 浩（京都ウェザー） 気温図と四季気温マップ（IV）－気温の高度減率による東西4000kmのアメリカ合衆国の地域特性評価－
- B311 草薙 浩（京都ウェザー） 季節進行指標から見た九州・沖縄地方の気候
- B312 平川 紀夫（気象予報士会） クマゼミ初鳴日，最盛期鳴日と梅雨明け日
- B313 平松 信昭（気象予報士会） 気象予報士CPD制度の創設（その2）

大会第3日 【10月23日(木)】 9:10～11:30 口頭発表

C 会場

観測手法

座長：大野裕一（NICT）

- C301 上條 賢一（東洋大） マクロ的気象変動におけるLFDを用いた複雑性観測のための一方法
- C302 青木 誠（NICT） PANDAドップラーライダー装置の風測定精度検証
- C303 岩井 宏徳（NICT） ドップラーライダーによる雨滴落下速度計測
- C304 LUCE HUBERT（京大生存研） Turbulence scales and energetics in clear air and clouds evaluated from MU radar and balloon measurements
- C305 GAN Tong（京大生存研） Development of a method for estimating vertical wind velocity in precipitation using VHF atmospheric radars
- C306 大野 裕一（NICT） アースケア衛星搭載雲レーダのビーム内エコー強度不均一のドップラ補正
- C307 勝俣 昌己（JAMSTEC） 海洋地球研究船「みらい」新レーダーの稼働開始について（速報）
- C308 前坂 剛（防災科研） XバンドMPレーダーで観測した降雹を伴う積乱雲の後方散乱偏波間位相差について
- C309 佐々 浩司（高知大理） 高知大学のMPレーダー観測システム
- C310 佐藤 英一（気象研） 気象レーダーを用いた火山噴煙の解析Ⅰ：二重偏波パラメータによる噴煙領域の特定
- C311 真木 雅之（鹿大） Ka バンドドップラレーダによる桜島噴煙観測
- C312 民田 晴也（名大地球水循環） 低コストレーザラインスキャナによる降雪粒子観測(2)－降水粒子種別毎の粒径分布計測に向けて－
- C313 青木 輝夫（気象研） 近赤外域イメージセンサーによる積雪粒径測定
- C314 入江 仁士（千葉大CEReS） MAX-DOAS法によるエアロゾル観測の評価：CRDS法・ライダー・スカイラジオメーター観測との比較

大会第3日 【10月23日(木)】 9:10~11:30 口頭発表

D 会場

大気境界層

座長：北村祐二（気象研）

- D301 弓野 沙織（東北大学） 猛暑による屋外歩行空間の健康被害 リスクの評価手法の開発
- D302 杉本 志織（首都大） 北海道の農地化に伴う冬季の気候変化
- D303 藤枝 鋼（気象研） 日本国内における地表面付近の下向き長波長放射量推定に関する評価
- D304 中城 智之（福井工大） 隣接した2基のウィンドプロファイラレーダーの水平風比較
- D305 阪本 洋人（RISH） 稠密地上観測に基づく突風率の地域変動特性
- D306 萱場 互起（気象庁気候情報） 夏季のヒートアイランド強度の年々変動
- D307 北村 祐二（気象研） 数値モデルで診断される地表面熱フラックスの水平解像度依存性
- D308 大風 翼（東北大院工） COSMO siteでの不安定成層形成時の測定結果を目標とした変動風データの人工的な生成

大気力学

座長：岩山隆寛（神戸大院理）

- D309 宮本 歩（東大先端研） 南インド洋亜熱帯高気圧の季節変動
- D310 齊藤 洋一（気象協会） 2014年1月8日に関東地方を通過した波状擾乱の事例解析
- D311 黒田 友二（気象研） 強制が大気循環に与える影響を特定する新手法
- D312 野田 彰（JAMSTEC／気象研） 波に誘起された渦拡散テンソルとStokesドリフトの関係
- D313 岩山 隆寛（神戸大院理） 地衡流乱流における異常渦粘性
- D314 相木 秀則（JAMSTEC/APL） 風波の生成問題におけるLagrange擾乱量とEuler擾乱量の区別

大会第3日 【10月23日(木)】 13:30～17:00 スペシャル・セッション

A 会場

全球降水観測計画「GPM」コア衛星初期データと新たな降水観測

趣旨説明

座長：久保田拓志（JAXA）

- A351 沖 理子 (JAXA) 全球降水観測計画 (GPM) の全体概要と初期結果
- A352 久保田 拓志 (JAXA/EORC) 全球降水観測計画 (GPM) 二周波降水レーダ (DPR) の初期校正検証
- A353 井口 俊夫 (NICT) 全球降水観測(GPM)衛星搭載の二周波降水レーダ(DPR)の降雨検出感度
- A354 瀬戸 心太 (長大院工) GPM/DPRによる降水強度推定における二周波法の効果
- A355 花土 弘 (NICT) GPM/DPR(全球降水観測計画主衛星搭載二周波降水レーダ) 軌道上でのビーム一
致度の確認
- A356 下妻 達也 (長大院) GPM/KuPR と TRMM/PR のマッチアップ事例における比較
- A357 中川 勝広 (NICT) NICTにおけるGPM/DPRの地上検証計画
- A358 小林 隆久 (電中研) 短波長偏波レーダーのシミュレーション：降雪

座長：高荻 縁（東大大気海洋研）

- A359 可知 美佐子 (JAXA/EORC) GPM全球降雨マップ (GPM-GSMaP) の初期検証評価
- A360 青梨 和正 (気象研) GPMマイクロ波放射計(GMI)用の降水リトリーバルアルゴリズム
- A361 広瀬 正史 (名城大) 2つの衛星搭載降水レーダデータの特性
- A362 金丸 佳矢 (JAXA/EORC) TRMM PR 気候データセット整備に向けた軌道高度変更補正データの
作成
- A363 高荻 縁 (東大大気海洋研) 降水観測衛星による極端降雨解析研究
- A364 濱田 篤 (東大大気海洋研) Cバンド地上レーダ長期観測によるTRMM PR強雨推定の検証
- A365 岡本 幸三 (気象研) 衛星搭載レーダーの同化に向けて (その2) TRMM/PR, GPM Core/DPRの利
用
- A366 小槻 峻司 (理研計算科学) GPM/DPR地上降水量データの初期検証：3.5km NICAMとの比較

総合討論とまとめ

大会第3日 【10月23日(木)】 13:30～17:00 スペシャル・セッション

B 会場

南岸低気圧による大雪：その要因，実態，予測可能性

座長：中井専人（防災科研・雪氷）

- B351 中井 専人（防災科研・雪氷） 2014年2月14日～15日南岸低気圧時の降水の推移
- B352 荒木 健太郎（気象研） 2014年2月関東甲信地方の大雪における詳細降雪分布の解析
- B353 加藤 輝之（気象研） 2014年2月8日と14～15日の大雪の発生要因と過去事例との比較
- B354 本田 明治（新潟大理） 2014年2月14日～16日の関東甲信地方に大雪をもたらした大気場の3次元構造の特徴
- B355 安藤 直貴（筑波大院生命環境） 南岸低気圧に伴う本州内陸での多降水・多降雪の発現
- B356 中山 秀晃（気象予報士会） 関東地方の雨雪判定と降雪情報の開発
- B357 中村 一樹（防災科研雪氷） 2014年2月の南岸低気圧における降水形態の違いによる被害分布の変化
- B358 上石 勲（防災科研雪氷） 2014年2月南岸低気圧による大雪災害の概要と応急対応
- B359 中村 一樹（防災科研雪氷） 2014年2月の南岸低気圧の降雪による表層雪崩の特徴
- B360 松下 拓樹（土木研） 2014年2月の大雪時の雪崩発生条件に関する一考察
- B361 平島 寛行（防災科研） 南岸低気圧による大雪災害への雪氷災害発生予測システムの適用
- B362 小松 麻美（気象協会） 南岸低気圧通過時における積雪変質モデルを用いた雪崩発生の予測可能性について～2014年2月15日宮城県作並地区での雪崩災害による検討～

休憩

座長：荒木健太郎（気象研）

- B363 山崎 哲（JAMSTEC） ブロッキングに関係した2014年2月の日本付近の大気循環場
- B364 吉田 聡（JAMSTEC/APL） Winter T-PARC 2009観測が爆弾低気圧の予測可能性に及ぼす影響
- B365 渡邊 俊一（東大大気海洋研） 2013年1月14日の南岸低気圧の発達に対する上層擾乱と潜熱解放の寄与
- B366 吉住 蓉子（九大院理） ビデオゾンデを用いた冬季南岸低気圧の発達初期段階における降水雲の観測
- B367 佐野 哲也（山梨大ICRE） 2014年2月14-15日に甲府盆地にもたらされた南岸低気圧に伴う豪雪の特徴と形成過程
- B368 荒木 健太郎（気象研） 2014年2月8～9日関東甲信地方大雪時の降雪雲の特徴
- B369 山下 克也（防災科研雪氷） 2014年2月の南岸低気圧による関東甲信地方大雪時の降雪種
- B370 石坂 雅昭（防災科研（雪氷）） 南岸低気圧に伴う温暖前線前面の降雪粒子の特徴
- B371 中井 専人（防災科研・雪氷） 2014年2月南岸低気圧時における長岡の降雪雲

総合討論

大会第3日 【10月23日(木)】 13:30～17:00 スペシャル・セッション

C 会場

放射観測に関する気象学・気候変動研究の進展

座長：大河原望（気象庁）

- C351 藤谷 徳之助 (環境研) 国内における放射観測に関するアンケート調査結果
- C352 早坂 忠裕 (東北大院理) 地上における放射観測の現状と課題
- C353 堀 雅裕 (JAXA/EORC) GCOM-C観測プロダクトの検証に向けた地上観測機材の校正・性能評価の取り組み
- C354 山崎 明宏 (気象研) 積分球を使ったスカイラジオメータの検定
- C355 眞子 直弘 (千葉大CEReS) SKYNET/スカイラジオメータの立体視野角校正
- C356 座間 達也 (計測標準光放射) 放射観測機器の信頼性向上—計量標準の観点から見た問題点と1提案
- C357 山田 恭平 (東北大院理) 海上ブイの下向き放射観測の精度
- C358 田口 彰一 (産総研) 大気上端正味放射と海面水温の関係

座長：早坂忠裕（東北大院理）

- C359 大河原 望 (気象庁環境気象) 気象庁における放射観測と気候変動研究への貢献
- C360 堤 之智 (気象大) 九州と沖縄地方での完全曇天時の全天日射トレンドについて
- C361 三枝 信子 (環境研) 気候・陸域生態系変動把握に向けた観測ネットワーク活動と放射観測の課題
- C362 村岡 裕由 (岐阜大学) 森林の光合成生産力推定のための放射観測と生理生態学的研究の融合と展望
- C363 久米 篤 (九大農) 光合成有効放射と放射観測
- C364 工藤 玲 (気象研) EarthCAREのATLID-MSI複合エアロゾルプロダクトの開発
- C365 Khatri Pradeep (CEReS) Single scattering albedo inconsistency between CIMEL sun photometer (AERONET) and sky radiometer (SKYNET): Algorithm or data?
- C366 齊藤 雅典 (東北大院理) 薄明の空の写真からエアロゾル光学特性を推定するアルゴリズムの開発

大会第3日 【10月23日(木)】 13:30～17:00

D 会場

13:30～15:30 スペシャル・セッション

大気－陸面間の水・エネルギー・炭素フラックスに関する最新研究2014

座長：吉田龍平（東北大院理）

- D351 小谷 亜由美（名大院生命農学） 常緑落葉混交林における二酸化炭素交換量と吸収期間の年変動
- D352 田口 彰一（産総研） 二酸化炭素濃度の季節変動振幅と放出吸収の関係
- D353 帯川 裕基（筑波大院生命環境） アジア東部における陸域炭素収支量の変動要因解析
- D354 山田 大輔（筑波大院生命環境） 窒素降下量が日本の炭素収支に与える影響の評価
- D355 栗林 正俊（九大応力研） WRF/VISITモデリングシステムを用いた山岳域における森林生態系の炭素収支の現状評価と将来予測

座長：佐々井崇博（筑波大院生命環境）

- D356 庭野 匡思（気象研） グリーンランド氷床上積雪面における潜熱フラックス計算方法の再検討
- D357 小林 哲夫（無） 2階建接地気層(DSAL)モデルに基づく灌漑水路からの蒸発量評価
- D358 福井 眞（農環研） 植物の水輸送を担うタンパク質・アクアポリンの発現動態の気象条件依存性
- D359 増富 祐司（茨城大農） Global-MATCRO-Riceの開発に向けた水稻の生育期間推計
- D360 斉藤 淳志（名大院生命） 東シベリアカラマツ林における、長期湿害に伴う炭素・水循環機能の変化
- D361 宮崎 真（極地研、JAMSTEC） モンゴル北部永久凍土域のカラマツ林における熱・炭素交換の年々変動と季節変化

15:40～17:00 スペシャル・セッション

防災気象情報

座長：弘中秀治（気象予報士会）

- D362 白石 晶二（予報士会） 気象災害から命を守る（その1）
- D363 加藤 内蔵進（岡大・教育・理科） 日本付近の大雨の『質』の多様性に関する中学校での授業実践（防災気象教育と文化理解教育の接点を意識して）
- D364 高橋 尚也（防災科研） 気象情報を活用した防災教育
- D365 中谷 剛（防災科研） 防災気象情報の伝達や利用に関する事例考察
- D366 原田 裕介（寒地土研） インターネットによる吹雪視界情報の活用状況
- D367 龍山 康朗（RKB） 防災気象情報を伝えるために・・・気象予報士の役割
- D368 道本 光一郎（ウェザー・サービス） 防災気象情報などの提供方法等に関する一考察（主に予告的な情報について）

大会第1日 【10月21日(火)】 17:00~18:00 ポスター・セッション

- P101 吉田 龍平 (東北大院理) LETKF と側面境界の最適化によるドップラーライダー観測モードの検討
- P102 青柳 暁典 (気象研) ドップラーライダーを用いた都市域の粗度パラメータの推定
- P103 志藤 文武 (気象研) 観測露場周辺の気温の通年観測 (第3報) —ビルの影と気温—
- P104 南雲 信宏 (気象研) 海風前線周辺の気流構造と非降水エコー分布の関係
- P105 森 佳祐 (北大院環境) 積雪被覆を考慮した都市キャノピーモデルによる冬季札幌の気温の再現性評価
- P106 永尾 一平 (名大院環境) 名古屋港で観測された夏季海陸風のホドグラフの鉛直分布
- P107 松井 亜貴 (学芸大) 富士山での笠雲出現日の解析及び予測可能性
- P108 西 暁史 (筑波大院生命環境) 局地風『空っ風』の強風域の空間的特徴
- P109 重田 祥範 (立正大地球環境) 上信越山岳域における高密度気象観測 (1) —山越え気流発生時の温位勾配—
- P110 渡来 靖 (立正大地球環境) 上信越山岳域における高密度気象観測 (2) —冬季山越え気流吹送時の山地斜面に沿った温位分布の特徴—
- P111 中川 清隆 (立正大地球環境) 上信越山岳域における高密度気象観測 (3) —利根川谷筋の晴天日気温日変化の季節変化および地域差—
- P112 中川 清隆 (立正大地球環境) 上信越山岳域における高密度気象観測 (4) —2013年8月の晴天日気温日変化の地域差—
- P113 三井 文乃 (東北大院理) 大気上端における短波放射強制力の雲の鉛直分布による違い
- P114 岡林 裕介 (環境研) 偏光を考慮した放射伝達モデルにおける解析ヤコビアン計算
- P115 江川 大貴 (岡山大院自然) ライダーとスカイラジオメーターを用いた岡山におけるエアロゾルの光学的厚さの観測
- P116 村山 昌平 (産総研) 酸素安定同位体観測により推定された飛騨高山サイトにおける夜間の生態系呼吸に対する土壌呼吸の割合の季節的変動
- P117 石戸谷 重之 (産総研) 質量分析計を用いた大気中酸素および二酸化炭素濃度の高精度連続観測—発生源解析のための局所 CO₂ 輸送モデルの評価に向けて—
- P118 中村 俊介 (九大院総理工) CALIPSO/CALIOP と赤外 IIR センサーを利用した黄砂検出
- P119 福島 聡 (熊本県立大環境共生) 境界層内エアロゾルの高度分布の変動: 2010~2014 年 九州西岸での観測
- P120 舟田 亮子 (奈良女子大学人間文化) 船舶太陽放射観測から得られた海上エアロゾルの微物理特性
- P121 木ノ内 健人 (金沢大院) 能登半島における雲粒粒径の季節変動: 2012 年 10 月—2013 年 8 月の地上観測から
- P122 宮川 真友 (奈良女子大院人間文化) 地上観測から得られた南極昭和基地における雲量の変動
- P123 原 圭一郎 (福岡大・理) 南極昭和基地における Black Carbon 濃度とその季節変化
- P124 長瀬 友美 (奈良女子大院人間文化) アジアにおけるメタン変動の研究—NICAM-TM-CH₄ モデルと衛星データとの比較—
- P125 野村 渉平 (環境研) 富士山頂の CO₂ 濃度—Mt. Mauna Loa, Mt. Waliguan との比較—
- P126 柴田 隆 (名大院環境) スパールバル上空の自由対流圏エアロゾルと雲のライダー連続観測
- P127 茂木 信宏 (東大院理) 降水・雪氷中の微粒子の粒径別数濃度を観測するための数理モデル

大会第1日 【10月21日(火)】 17:00~18:00 ポスター・セッション

- P128 半田 太郎 (九大院理) 衛星データから見たオゾン量の経年変動と力学場の関係
- P129 山下 陽介 (環境研) CCSR/NIES-agcm5.4g, 及び, CCSR/NIES-MIROC3.2 化学気候モデルにおける太陽 11 年周期の影響の比較
- P130 鈴木 臣 (名大STE研) 広域多地点大気光観測による中間圏大気重力波
- P131 大石 哲 (神戸大学) Development of Pedestrian Navigation System Using Short Term Rainfall Prediction on Smartphone
- P132 井上 晃介 (東京学芸大院 教育) 温帯低気圧の急発達時における環境場の比較
- P133 津田 元気 (旭川地方気象台) 気象庁局地解析システムを用いた 2 段階解析実験
- P134 高橋 暢宏 (NICT) CloudSat を用いた冬季日本海の雲の出現特性について
- P135 出世 ゆかり (防災科研) 2013 年 7 月 8 日に東京都に降雹をもたらした積乱雲の X バンド MP レーダー観測
- P136 木村 祐輔 (新潟大院自然) 冬季佐渡島周辺における降水分布の再現実験
- P137 津口 裕茂 (気象研) 2013 年 8 月 9 日の秋田・岩手県の大雨の発生要因について (その 2)
- P138 鈴木 悠也 (福島大院 共生システム理工学研究科) 雲解像モデルCReSSを用いた福島県で発生した短時間強雨の事例解析
- P139 岩崎 杉紀 (防衛大地球海洋) 下部成層圏のかなとこ雲
- P140 久保 達哉 (大阪電通) MU レーダー高時間分解能観測による積雲対流の微細構造
- P141 大脇 良夫 (名大地球水循環) 2013 年 6 月 15 日にパラオ共和国で観測された降水システム内の凝結物と偏波パラメータの対応関係
- P142 本田 匠 (九大院理) 親雲と冷氣境界との相互作用による竜巻発生過程-冷氣摂動振幅への依存性-
- P143 斎藤 篤思 (気象研) エーロゾル・雲核・氷晶核数濃度の地上モニタリング観測
- P144 島田 正樹 (防衛大地球海洋) 2014 年 1 月 14 日における人工降雨実験の事例解析及びシーディングによる降水量の軽減
- P145 山本 真之 (京大生存研) ウィンドプロファイラーによる鉛直流計測を活用した EarthCARE 衛星雲プロダクトの検証提案
- P146 広瀬 民志 (千葉大 CEReS) 静止気象衛星赤外観測を用いた対流性降雨の検出と GSMaP
- P147 小山 亮 (気象研) 2013 年台風 23 号及び 24 号の発達期の構造変化の比較
- P148 板垣 陽太 (東大大気海洋研) 南太平洋収束帯付近に降る降雨頂の高い雨の研究
- P149 沢田 雅洋 (気象研) 軸対称台風モデル JCHIPS を用いた台風の強度予報実験
- P150 西 憲敬 (福岡大理) 静止衛星データを用いた長期雲データベースの作製(序報)
- P151 江口 菜穂 (九大応力研) 2010 年 1 - 2 月の熱帯下部成層圏の急激な CO 濃度増加について
- P152 高倉 寿成 (九大院理) 台風中心近傍の水蒸気起源の季節別特徴
- P153 高橋 千陽 (JAMSTEC) 北半球冬季熱帯域における季節内降水の将来変化と遠隔影響
- P154 加藤 雅也 (名大地球水循環) CReSS-NHOES を用いた台風の発達に対する黒潮の役割の解析
- P155 出牛 真 (気象研) 巨大火山噴火が中層大気の大循環・化学過程へ及ぼす影響: 地球システムモデルによる解析
- P156 内山 常雄 (気象予報士会) 2014 年前半の関東甲信越の気温変動
- P157 安田 珠幾 (気象研) 熱帯太平洋の十年規模変動が ENSO 予測に及ぼす影響

大会第1日 【10月21日(火)】 17:00~18:00 ポスター・セッション

- P158 山地 萌果 (首都大院都市環境) エアロゾル-雲-降水の相互作用に着目したエアロゾル光学的厚さの年々変動の非対称性
- P159 清水 治 (防衛大地球海洋) 空気潤滑法による泡の反射率の測定
- P160 横山 土実 (首都大院都市環境) チベット高原上で発生・東進する対流活動の統計的研究
- P161 神澤 望 (首都大院都市環境) CMIP5 による夏季アジアモンスーン域における降水量の将来変化予測
- P162 井上 知栄 (JAMSTEC/DCOP) インドシナ半島における 3~4 月降水量の年々変動と循環場との関係
- P163 渡邊 茂 (筑波大院生命環境) 南アジア夏季モンスーンの将来予測における CMIP3-CMIP5 間の不確実性に寄与する要因
- P164 水野 翔太 (富山大学理学部) 日本海沿岸域の初冬期における降水量の増加傾向について
- P165 眞崎 良光 (環境研) GCMの湿度バイアスが蒸発散量の推定に与える影響の定量的評価
- P166 長谷川 聡 (ICHARM) MRI-AGCM3.2H の RCP シナリオ実験の日降水量の統計的ダウンスケーリング
- P167 道端 拓朗 (九大院総理工) MIROC-SPRINTARS における auto-conversion スキームの検討
- P168 川瀬 宏明 (気象研) NHRCM20 のアンサンブル実験による冬季日本海側における降水量の将来予測
- P169 朴 昊澤 (JAMSTEC/RCGC) 北極大河川の氷厚と水温環境の変化
- P170 吉田 康平 (気象研) MRI-CGCM3 による過去千年気候の高解像度シミュレーション
- P171 原 政之 (JAMSTEC) 気候変動が日本の大都市の冬季ヒートアイランドに与える影響
- P172 大泉 三津夫 (気大) NHRCM の iSiB 植生キャノピーサブモデルに導入した接地境界層スキーム
- P173 小林 ちあき (気象研) JRA-55 ファミリーにおける降水量と海面水温との関係の再現性評価
- P174 大谷 和男 (岡山大院自然) 1993 年の長崎を例とした梅雨前線停滞時の多雨日と少雨日にみられる広域大気場の比較—梅雨降水量の長期変動理解へのベースの一つとして—
- P175 岡島 悟 (東大先端研) 黒潮・親潮続流域の十年規模変動に伴う海面水温偏差に対する大規模大気応答の可能性とそのメカニズム
- P176 荒川 隆 (JAMSTEC) NICAM 低解像度計算における単体実行と COCO 結合時の比較
- P177 木村 恭徳 (首都大院都市環境) 東京の都心西方における冬季夜間の気温分布と風系との関係
- P178 高橋 洋 (首都大・JAM) MIROC-ESM によるエアロゾルの直接効果及び間接効果の見積もり：熱帯域と中緯度域との違い
- P179 山浦 剛 (理研計算科学) 北半球夏季季節内振動にみられる十年規模変動
- P180 門倉 真二 (電中研) 統計的手法による気象要素の確率密度推定(6)—河川流域降水量 PDF の将来変化の地域性—
- P181 山田 賢 (京大院理) 熱帯季節内振動に対する中高緯度大気循環の応答における振幅依存性
- P182 永井 将貴 (千葉大院理) 黒潮前線帯からの水蒸気供給と低気圧の急速発達—コンボジット解析と熱収支解析—
- P183 村崎 万代 (気象研) 高解像度 SST 版 JRA-55 を境界条件に用いた NHM による大気応答
- P184 川合 義美 (JAMSTEC/RCGC) 梅雨期の黒潮・黒潮続流域におけるゾンデ観測同化のインパクト
- P185 江口 菜穂 (九大応力研) GOSAT TANSO-FTS スペクトルからの巻雲検出:CALIOP との比較

大会第1日 【10月21日(火)】 17:00~18:00 ポスター・セッション

- P186 関 隆則 (気象予報士会) 生徒の能動的参加を重視した気象実験事例 (その2) 「赤外線放射と吸収実験」
- P187 本間 基寛 (京大防災研) 幅のある気象情報の表現方法に関する基礎的検討
- P188 紺野 祥平 (東北農研センター) アンサンブル予測実験結果を用いたイネ葉いもち病発生確率予測の精度評価
- P189 武村 一史 (京大院理) キメラグリッド法により地形表現を行う気象モデルの開発
- P190 直原 悠紀子 (神戸大院工) 超高解像レーダーと移流モデルを用いた降雨予測場に関する研究
- P191 林 浩平 (防衛大地球海洋) 人工降雨 (豪雪軽減) 実験
- P192 茅場 聡子 (奈良女子大院人間文化) 中国華北域における一酸化炭素とオゾンの変動解析-バイオマスパージングとの関連研究-
- P193 福田 悟 (JAXA/EORC) GOSAT/TANSO-CAI から得られたエアロゾルの光学的厚さと TANSO-FTS から得られたエアロゾルの光学的厚さの比較
- P194 高木 聖子 (東海大 TRIC) EarthCARE/MSI 観測データを用いた雲判別・雲物理量プロダクト開発の現状と展望
- P195 原 由香里 (九大応力研) 一週間継続した黄砂と越境大気汚染の輸送構造と物理化学特性
- P196 田上 雅浩 (東大院工) 日本全国における降水の安定同位体比を用いた水蒸気起源の推定
- P197 馬場 賢治 (酪農大 環境) 洞爺湖中島におけるエゾシカの個体数と大気場の関係について
- P198 松下 拓樹 (土木研) 積雪期における降雨の発生実態 (2) -発生頻度の地域的な特徴-
- P199 鈴木 博人 (JR東日本防災研究所) 関東平野における大雨の空間スケール - 複数の機関の降雨量データを用いた解析 -
- P1a0 内山 庄一郎 (防災科研) SfM による雲の三次元形状モデル生成に関する試行的研究
- P1a1 西川 将典 (北大低温研) 2 台の Ka 帯レーダーを用いた融解層における減衰率の推定 (2)
- P1a2 川村 誠治 (NICT) 地上デジタル放送波を用いた水蒸気観測システムの研究開発
- P1a3 妻鹿 友昭 (阪大院工) 雨量計補正降水マップ(GSMaP Gauge)の作成
- P1a4 林 翔太 (長大院工) 地上レーダーデータを利用した TRMM-PR における降雨の非一様性推定手法の検証
- P1a5 山下 克也 (防災科研雪氷) 2013/14 冬季の新潟での試験的な降雪粒子観測結果を用いた 2 次元ビデオディストロメーターの性能調査
- P1a6 藤本 梨沙 (奈良女子大理) 船舶搭載型全天カメラデータ解析による雲の研究
- P1a7 杜 明遠 (農環研) ダストパーティクルカウンターを利用した PM2.5 のモニタリングについて
- P1a8 小西 啓之 (大阪教育大) 光学式雨量計による降雪観測
- P1a9 小司 禎教 (気象研) 複数 GNSS 利用による海上での可降水量解析精度向上
- P1b0 永井 智広 (気象研) 二酸化窒素観測用差分吸収法ライダー (DIAL) の開発

大会第3日 【10月23日(木)】 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 伊藤 純至 (東大大気海洋研) 砂漠に生じたダストデビル (塵旋風) の PIV
- P302 川端 康弘 (気象研) 大気-地表面間におけるエネルギー輸送
- P303 萩野谷 成徳 (気象研) 館野の鉄塔データから推定した粗度長の長期変動 (2)
- P304 藤間 由佳 (首都大院都市環境) 東京都における都市キャノピー層内の気温の時空間変動と局地風系との関係
- P305 中村 祐輔 (立正大院地球環境) 埼玉県熊谷市におけるヒートアイランド強度の日変化パターン—統計的手法によるアプローチ—
- P306 中島 虹 (首都大院都市環境) 連続する海風日における大気汚染物質濃度の変化
- P307 瀬戸 芳一 (首都大院都市環境) 関東平野における夏季日中の収束・発散場からみた近年の局地風系の特徴
- P308 佐藤 亮吾 (筑波大院生命環境) 福島県中通り地方における風の気候学的研究
- P309 高根 雄也 (産総研) 2013 年 8 月における四万十猛暑の数値シミュレーション
- P310 吉田 龍平 (東北大院理) 東日本における気候変化と水稻栽培品種の将来変化
- P311 五十嵐 健祐 (東北大院理) 東日本におけるいもち病感染リスクの将来変化
- P312 朽木 勝幸 (気象研) 複数の積雪粒子形状モデルを用いた積雪物理量の推定
- P313 渡邊 武志 (東海大TRIC) サンプルエントロピーを用いた日射量の変動の評価
- P314 所 悠香 (東北大院理) 内量の発現と氷晶雲の微物理特性の関係
- P315 井上 梓 (奈良女子大学院人間文化) 地上および衛星観測データ解析による雲層高度の推定とその検証
- P316 森本 祥太郎 (東大大気海洋研) クロロフィルによる海面射出がエアロゾル推定量に及ぼす影響
- P317 高島 久洋 (福岡大理) MAX-DOAS 法によるホルムアルデヒド (HCHO) の立体観測 ～ 福岡都市域における空間不均質性 ～
- P318 石塚 正秀 (香川大工) モンゴルゴビ砂漠におけるダストフロントの観測 ～2014 年春の集中観測～
- P319 弓本 桂也 (気象研) 全球エアロゾルモデル MASINGAR を用いた黄砂同化予測システムの開発
- P320 古賀 聖治 (産総研) 南大洋における大気境界層内エアロゾル粒子の消散・散乱係数
- P321 橋本 真喜子 (大気海洋研) エアロゾル特性推定のための多波長マルチピクセル法を用いたリモートセンシング手法の開発
- P322 小濱 里沙 (東大大気海洋研, 環境研) 札幌のオゾン全量トレンドに対するハロゲンガス増加の影響について
- P323 坪井 一寛 (気象研) 南鳥島気象観測所における大気中ハロカーボン濃度観測
- P324 杉田 考史 (環境研) 西シベリア上空の水蒸気・気温・メタン高度分布の比較
- P325 川上 修司 (JAXA/EORC) GOSAT データ検証のための地上高分解能 FTS による二酸化炭素およびメタンの気柱量の長期観測 (その2)
- P326 町田 敏暢 (環境研) 航空機を利用したシベリア上空の温室効果ガスの長期観測
- P327 松枝 秀和 (気象研) CONTRAIL で観測された上部対流圏の微量気体濃度の分布と変動
- P328 澤 庸介 (気象研) CONTRAIL で観測された上部対流圏 CO₂ の濃度増加速度の変動
- P329 納口 泰輔 (北大院環境) 2000 年-2001 年に観測された成層圏水蒸気減少に関する考察

大会第3日 【10月23日(木)】 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P330 伊藤 一成 (東北大学院理) GCM を用いた金星硫酸雲生成・消失と大気化学過程の研究
- P331 林 歩夢 (北大院環境) 東アジア・北西太平洋における夏の上層渦位と降水の関係性
- P332 山上 晃央 (筑波大院生命環境) 3次元ノーマルモード展開を用いた JRA-55 長期再解析データのエネルギースペクトル解析
- P333 若月 泰孝 (筑波大アイソ) レーダ画像から逆推定した対流発生領域への水蒸気ナッジング実験
- P334 山本 宗尚 (京大院理) 対流圏下層安定度を考慮した地形性降雨推定手法の GSMaP への実装
- P335 大瀧 莞司 (富山大学理学部) 東シナ海における 6 月の降水特性の違い
- P336 大高 早苗 (筑波大院生命環境) 首都圏における降水への都市の影響調査
- P337 野呂瀬 敬子 (防衛大地球海洋) 地上稠密観測で捉えた 2013 年 8 月 11 日前橋ダウンバーストの空間構造
- P338 大井川 正憲 (京大生存研) LETKF を用いた 2012 年 8 月 14 日の宇治豪雨の線状降水帯の解析
- P339 野村 光春 (電中研) 関東地方における降雪前の気温の低下 その 2
- P340 河田 雅生 (九大院理) 下層風の鉛直シア環境場におけるスコールラインの傾斜変化
- P341 櫻井 南海子 (防災科研) 関東の暖候期に発生する積乱雲に対するレーダパラメータを用いた発雷指標の比較検討
- P342 小池 雄大 (神戸大院工) 偏波レーダーと雷探知装置を用いた前線通過に伴う雷と降水セルに関する研究
- P343 本吉 弘岐 (防災科研雪氷) 質量・粒径・落下速度の同時測定から得られた降雪粒子の抵抗係数の特徴
- P344 西川 はつみ (三重大院生物資源) ラジオゾンデ観測で捉えられた千島列島周辺の cold SST spot が形成するメソ高気圧
- P345 中 大輔 (神戸大院工) 複数の GPS 受信機を使用した天頂大気遅延量の解析
- P346 大島 和裕 (JAMSTEC/RCGC) 北極域における大気客観解析データの再現性評価: ラジオゾンデ観測との比較
- P347 辻 宏樹 (九大院理) 台風を模した渦の大きさに対する二次循環の広がり的重要性
- P348 斎藤 琢 (岐阜大・流域圏) スギ・ヒノキ林を対象とした G P P 推定モデルの精度検証
- P349 柳瀬 篤志 (富山大学理学部) 海洋大陸における日周期降水活動の季節変化
- P350 幸田 純子 (九大院理) 自己組織化マップ(SOM)を用いた北半球夏季季節内変動に関する研究
- P351 宮島 高弘 (富山大院理工) 北西太平洋域における台風と指向流の関係に関する研究
- P352 遠矢 康平 (名瀬測候所) 台風環境場の長期変化
- P353 鈴木 香寿恵 (統数研) ISM-確率台風モデルの開発ーその 1ー
- P354 宮坂 貴文 (東大先端研) 冬季北太平洋十年規模変動の長期変動とその将来予測
- P355 石崎 紀子 (JAMSTEC/DSEP) 気温と海面水温上昇に伴う日本海沿岸の冬季降水強度の変化
- P356 佐藤 友徳 (北大地球環境) マルチ GCM-マルチ RAM ダウンスケーリング実験による北海道の冬季気候予測の不確実性評価
- P357 荒川 理 (筑波大生命環境) 気象研究所高解像度大気大循環モデルにおけるチベット高原上の水収支とモデル水平解像度依存性
- P358 山口 悟 (防災科研) 日本における積雪物性値の季節・空間変動に関する研究

大会第3日 【10月23日(木)】 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P359 野坂 真也 (気象研) 地域気候モデルの風に対するバイアス補正手法の比較
- P360 今川 新 (千葉大院理) 南シナ海夏季モンスーン開始日に対する海洋の影響
- P361 二宮 大輝 (首都大院都市環境) 冬季東アジアモンスーンの季節内変動の長期変化
- P362 熊井 暖陽 (筑波大院生命環境) 積雲対流スキームに起因する夏季アジアモンスーン気候再現の差異
- P363 遠藤 洋和 (気象研) 高解像度 MRI-AGCM によるモンスーン降水の再現性
- P364 西澤 慶一 (電中研) エネルギー収支モデルを用いた放射強制力の有効性の見積もり
- P365 三木 友梨紗 (筑波大院生命環境) 地球温暖化に伴う熱帯域の対流変動
- P366 高橋 洋 (首都大・JAM) 観測・再解析・CMIP5 モデルによるカラム積算水蒸気量と水蒸気リサイクルリングの経年変動
- P367 村田 昭彦 (気象研) 地域気候アンサンブル実験における日本付近の極端な降水量の再現性
- P368 横山 正樹 (農環研) ダウンスケールデータと地点観測データを使用した高知県の日降水量主成分分析
- P369 シェリフ多田野 サム (東大大気海洋研) 氷期に氷床が大気循環を通して大西洋子午面循環に与える影響
- P370 杉本 志織 (首都大) バングラディシュおよびその周辺域での降水過程に対する陸面状態の影響
- P371 初鹿 宏壮 (富山県環境科学センター) 診断型積雪分布モデルを用いた富山における積雪水量の時間空間分布解析
- P372 佐々木 秀孝 (気象研) NHRCM20 による確率降水量の不確実性について
- P373 仲江川 敏之 (気象研) 東京を対象とした SRES A1B 下での今世紀末の極端指標気候アナログ
- P374 田中 健路 (広工大環境) 1979 年 3 月 31 日の長崎港でのあびきに関する気圧ジャンプの再現計算
- P375 山本 勝 (九大応力研) 黄海・東シナ海ー日本海 SST シーズーが急発達する低気圧に与える影響
- P376 浜田 純一 (首都大都市環境) 海大陸域東部における豪雨出現の年々変動と ENSO との関連
- P377 横山 千恵 (東大大気海洋研) CMIP5 データを用いた梅雨期降雨の将来変化と環境場との関係
- P378 鈴木 智恵子 (JAMSTEC) 標高別にみた積雪被覆の季節変化
- P379 田中 朱美 (環境研) 複数の農業適応策を考慮した適応パスに関する感度分析
- P380 大竹 秀明 (産総研) 電力系統運用のための気象予測情報の利用 ―その 1― 局地モデルの日射量予測値の信頼区間推定
- P381 宇田川 佑介 (東大生産研) 電力系統運用のための気象予測情報の利用 ―その 2― 発電機起動停止計画モデルを用いた日射量予測値の信頼区間・予測精度が与える影響
- P382 菅野 湧貴 (東北大院理) 特定温位面以下の寒気質量の長期変化傾向
- P383 鳥羽瀬 世宇 (九大院理) 夏季北極海上の低気圧活動: SLP 低下とブロッキング発生地域との関連性
- P384 岩本 勉之 (極地研/新潟大理) 北極海の夏の水氷面積の変動と日本の冬の降雪深との関係
- P385 中野 優子 (九大院理) 黒潮続流域で急激に発達する最大クラスの爆弾低気圧の水蒸気起源の特徴

大会第3日 【10月23日(木)】 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P386 田中 博春 (長野県環境保全研) 温暖化影響に関する市民参加型モニタリングウェブサイト「信州・温暖化ウォッチャーズ」の構築・運用について
- P387 北村 岳史 (神戸大院工) 降雨予測を含めた歩行者ナビの開発・実装・改良に関する研究
- P388 小野 純 (極地研) 巨大低気圧通過時における北極航路域の海水短期予測実験
- P389 瀬古 弘 (気象研) 可搬型水蒸気ライダーと高密度気圧観測網を想定した観測システムシミュレーション実験
- P390 山口 弘誠 (京大防災研) XRAIN から推定した氷粒子混合比の雲アンサンブル同化手法の開発による豪雨予測
- P391 宮崎 理紗 (JAXA/EORC) GCOM-C/SGLI プロダクトの校正検証計画概要
- P392 パン シャオレ (九大応力研) Integrated observations on the anthropogenic pollutants and dust transport at Fukuoka using Polarization Optical Particle Counter (POPC) and Continuous Dichotomous Aerosol Chemical Speciation Analyzer (ACSA-12)
- P393 高畑 若奈 (酪農大 環境共生) 2012 年春季における CReSS を用いたアジアダストの再現実験
- P394 白石 浩一 (福岡大理) 蛍光ラマンライダーを用いた福岡における対流圏エアロゾルの観測
- P395 寺尾 有希夫 (環境研) 波照間島と落石岬で観測された大気二酸化炭素中の放射性炭素同位体比の年々変動と季節変動
- P396 村田 浩太郎 (熊本県立大環境共生) 異なる天気条件下のバイオエアロゾル濃度: 2012-2014 年春季の熊本西岸部における細菌数の観測
- P397 毛家村 友里子 (NWU) 2005 年春に着目した中国から日本へのオゾン越境汚染の事例解析
- P398 黒崎 泰典 (鳥大乾地研) モンゴルゴビ砂漠における谷スケール(約 10km)での黄砂発生の空間的違い
- P399 飯塚 聡 (水・土砂防災研究ユニット) MP レーダで推定される東京湾上の風速の検証
- P3a0 武藤 拓也 (千葉大院融) 衛星観測および地上観測による日本の対流圏NO₂カラム濃度のトレンド解析
- P3a1 山本 真之 (京大生存研) ウィンドプロファイラーレーダー用デジタル受信機の開発
- P3a2 加藤 万莉絵 (三菱電機) ライダを用いた雲底雲量自動計測法
- P3a3 堀江 宏昭 (NICT) EarthCARE/CPR 検証用高感度レーダの初期観測結果 (その 2)
- P3a4 野口 克行 (奈良女子大研究院自然) 静止衛星を用いた対流圏 NO₂ 観測における地表面 BRDF の影響—鉛直気柱量の評価—
- P3a5 清水 慎吾 (防災科研) 地上設置型マイクロ波放射計ネットワークと精度検証実験の概要
- P3a6 上原 盛希 (琉球大院理工) 雷計測のための光検出装置と雷光シミュレータの製作及び試験
- P3a7 酒巻 洋 (三菱電機) 偏光ドップラーライダーによる噴煙観測 — 初期観測結果 —
- P3a8 平形 麻紀 (JAXA/EORC) CALIPSO 及びTRMM によるCloudSat 雲粒子タイプ識別アルゴリズムの改良
- P3a9 小司 禎教 (気象研) GPS/GNSS 反射波を用いた積雪深解析(序報)
- P3b0 星野 俊介 (気象研) ドップラーライダーとゾンデを用いた乱流の鉛直構造把握の試み

講演者索引

< A >

Abe Manabu (阿部 学)	A312
Abo Makoto (阿保 真)	C157
Abo Makoto (阿保 真)	D206
Adacih Toru (足立 透)	B111
Aiki Hidenori (相木 秀則)	D314
Aizawa Takuro (相澤 拓郎)	B306
Akiyoshi Hideharu (秋吉 英治)	D220
Ando Naoki (安藤 直貴)	B355
Ando Yuta (安藤 雄太)	A173
Aoki Makoto (青木 誠)	C302
Aoki Teruo (青木 輝夫)	C313
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	A360
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	D152
Aoyagi Toshinori (青柳 曉典)	P102
Arakawa Osamu (荒川 理)	P357
Arakawa Takashi (荒川 隆)	P176
Araki Kentaro (荒木 健太郎)	B352
Araki Kentaro (荒木 健太郎)	B368
Ando Hiroki (安藤 紘基)	B157

< B >

Baba Kenji (馬場 賢治)	P197
Baba Yuya (馬場 雄也)	B208

< C >

Chen Guixing (陳 桂興)	D161
---------------------	------

< D >

Deushi Makoto (出生 真)	P155
Du Mingyuan (杜 明遠)	P1a7

< E >

Ebara Masahiko (江原 正彦)	B210
Egawa Daiki (江川 大貴)	P115
Eguchi Nawo (江口 菜穂)	P151
Eguchi Nawo (江口 菜穂)	P185
Endo Hirokazu (遠藤 洋和)	P363
Endo Nobuhiko (遠藤 伸彦)	A102
Enomoto Takeshi (榎本 剛)	A204

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保 弘徳)	A210
Fujiibe Fumiaki (藤部 文昭)	D111
Fujieda Tsuyoshi (藤枝 鋼)	D303
Fujima Yuka (藤間 由佳)	P304
Fujimoto Risa (藤本 梨沙)	P1a6
Fujita Akira (藤田 彬)	B217
Fujitani Tokunosuke (藤谷 徳之助)	C351
Fukuda Satoru (福田 悟)	P193
Fukui Shin (福井 眞)	D358
Fukushima Satoshi (福島 聡)	P119
Fukutomi Yoshiki (福富 慶樹)	A107
Funada Ryoko (舟田 亮子)	P120
Furumoto Jun-ichi (古本 淳一)	B113

< G >

Gan Tong (GAN Tong)	C305
Geng Biao (耿 驃)	A106
Goto Daisuke (五藤 大輔)	D208

< H >

Haga Yuuichi (埴和 優一)	A157
Hagihara Yuichiro (萩原 雄一朗)	C103
Haginoya Shigenori (萩野谷 成徳)	P303
Hamada Atsushi (濱田 篤)	A364
Hamada Jun-ichi (浜田 純一)	P376
Hamaki Tatsuya (濱木 達也)	A158
Hanado Hiroshi (花土 弘)	A355
Handa Taro (半田 太郎)	P128
Hara Keiichiro (原 圭一郎)	P123
Hara Masayuki (原 政之)	P171
Hara Yukari (原 由香里)	P195
Harada Yayoi (原田 やよい)	A154
Harada Yusuke (原田 裕介)	D366
Hasegawa Akira (長谷川 聡)	P166
Hashimoto Akihiro (橋本 明弘)	D168
Hashimoto Makiko (橋本 真喜子)	P321
Hashino Tempei (端野 典平)	D104
Hatsushika Hiroaki (初鹿 宏壮)	P371
Hayasaka Tadahiro (早坂 忠裕)	C352
Hayasaki Masamitsu (早崎 将光)	A310
Hayashi Ayumu (林 歩夢)	P331
Hayashi Kohei (林 浩平)	P191
Hayashi Michiya (林 未知也)	A162
Hayashi Shota (林 翔太)	P1a4
Hegde Anitha Kumari (Hegde Anitha Kumari)	A118
Hirakata Maki (平形 麻紀)	P3a8
Hirakawa Norio (平川 紀夫)	B312
Hiramatsu Nobuaki (平松 信昭)	B313
Hirano Soichiro (平野 創一郎)	C204
Hirano Tatsuki (平野 竜貴)	D213
Hirashima Hiroyuki (平島 寛行)	B361
Hirata Hidetaka (平田 英隆)	D114
Hirockawa Yasutaka (廣川 康隆)	B215
Hirose Hitoshi (広瀬 民志)	P146
Hirose Masafumi (広瀬 正史)	A361
Hirota Nagio (廣田 渚郎)	A309
Honda Meiji (本田 明治)	B354
Honda Takumi (本田 匠)	P142
Honma Motohiro (本間 基寛)	P187
Hori Masahiro (堀 雅裕)	C353
Horie Hiroaki (堀江 宏昭)	P3a3
Hoshino Shunsuke (星野 俊介)	P3b0

< I >

Ichii Kazuhito (市井 和仁)	C168
Iga Keita (伊賀 啓太)	A216
Igarashi Kensuke (五十嵐 健祐)	P311
Iguchi Toshio (井口 俊夫)	A353
Iida Yu (飯田 友)	B219
Iizuka Satoshi (飯塚 聡)	P399

Ikegami Masaaki (池上 雅明)	D217
Ikegawa Shinichi (池川 慎一)	B156
Imada Yukiko (今田 由紀子)	A167
Imai Koji (今井 弘二)	C212
Imakawa Shin (今川 新)	P360
Imakita Eiji (今北 詠士)	A164
Imamura Takeshi (今村 剛)	B164
Imasu Ryoichi (今須 良一)	C159
Inatsu Masaru (稲津 將)	A163
Inatsu Masaru (稲津 將)	A171
Inoue Azusa (井上 梓)	P315
Inoue Kousuke (井上 晃介)	P132
Inoue Makoto (井上 誠)	C156
Inoue Tomoshige (井上 知榮)	P162
Irie Hitoshi (入江 仁士)	C314
Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之)	A207
Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之)	D212
Ishidoya Shigeyuki (石戸谷 重之)	P117
Ishimoto Hiroshi (石元 裕史)	C102
Ishiwatari Masaki (石渡 正樹)	B167
Ishizaka Masaaki (石坂 雅昭)	B370
Ishizaki Noriko (石崎 紀子)	P355
Ishizawa Misa (石澤 みさ)	C167
Ishizuka Masahide (石塚 正秀)	P318
Isoda Fusako (磯田 総子)	B108
Itagaki Yota (板垣 陽太)	P148
Itahashi Syuichi (板橋 秀一)	D204
Ito Junshi (伊藤 純至)	D165
Ito Junshi (伊藤 純至)	P301
Ito Kazunari (伊藤 一成)	P330
Iwabuchi Hironobu (岩渕 弘信)	C108
Iwai Hironori (岩井 宏徳)	C303
Iwamoto Katsushi (岩本 勉之)	P384
Iwanami Koyuru (岩波 越)	B201
Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之)	B205
Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之)	B220
Iwasaki Shinsuke (岩崎 慎介)	B304
Iwasaki Suginori (岩崎 杉紀)	P139
Iwata Ayumi (岩田 歩)	D106
Iwayama Takahiro (岩山 隆寛)	D313

< J >

Jikihara Yukiko (直原 悠紀子)	P190
--------------------------	------

< K >

Kachi Misako (可知 美佐子)	A359
Kadokura Shinji (門倉 真二)	P180
Kadono Mio (門野 美緒)	B307
Kadowaki Masanao (門脇 正尚)	C202
Kamae Youichi (釜江 陽一)	A302
Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆)	A153
Kamiisi Isao (上石 勲)	B358
Kamijo Kenichi (上條 賢一)	C301
Kamizawa Nozomi (神澤 望)	P161
Kanada Sachie (金田 幸恵)	A112
Kanemaru Kaya (金丸 佳矢)	A362
Kanno Yuki (菅野 湧貴)	P382

Kasai Koki (葛西 光希)	A172	Kurosaki Yasunori (黒崎 泰典)	P398	Murata Akihiko (村田 昭彦)	P367
Kataoka Fumie (片岡 文恵)	C160	Kusaka Hiroyuki (日下 博幸)	A166	Murata Ken T. (村田 健史)	B107
Kato Kuranoshin (加藤 内蔵進)	D363	Kusanagi Hiroshi (草薙 浩)	B310	Murata Kotaro (村田 浩太郎)	P396
Kato Marie (加藤 万莉絵)	P3a2	Kusanagi Hiroshi (草薙 浩)	B311	Murayama Shohei (村山 昌平)	P116
Kato Masaya (加藤 雅也)	A165	Kusunoki Kenichi (楠 研一)	B110	Murazaki Kazuyo (村崎 万代)	P183
Kato Masaya (加藤 雅也)	P154	Kusunoki Shoji (楠 昌司)	A308	Muto Takuya (武藤 拓也)	P3a0
Kato Teruyuki (加藤 輝之)	B353	Kuwano-yoshida Akira (吉田 聡)	B364		
Kato Teruyuki (加藤 輝之)	D115			< N >	
Katsumata Masaki (勝俣 昌己)	C307	< L >		Nagai Masaki (永井 将貴)	P182
Kawabata Yasuhiro (川端 康弘)	P302	Le Duc (黎 徳)	D154	Nagai Tomohiro (永井 智広)	P1b0
Kawada Masaki (河田 雅生)	P340	Liu Huixin (Liu Huixin)	C209	Nagao Ippei (永尾 一平)	P106
Kawai Hideaki (川合 秀明)	A304	Luce Hubert (LUCE HUBERT)	C304	Nagasawa Chikao (長澤 親生)	D219
Kawai Kei (河合 慶)	D209			Nagase Tomomi (長瀬 友美)	P124
Kawai Yoshimi (川合 義美)	P184	< M >		Nagumo Nobuhiro (南雲 信宏)	P104
Kawakami Shuji (川上 修司)	P325	Machida Toshinobu (町田 敏暢)	P326	Naka Daisuke (中 大輔)	P345
Kawamoto Kazuaki (河本 和明)	A306	Maejima Yasumitsu (前島 康光)	D156	Nakagawa Toshiyuki (仲江川 敏之)	P373
Kawamura Seiji (川村 誠治)	P1a2	Maesaka Takeshi (前坂 剛)	C308	Nakagawa Katsuhiko (中川 勝広)	A357
Kawase Hiroaki (川瀬 宏明)	P168	Maki Masayuki (真木 雅之)	C311	Nakagawa Kiyotaka (中川 清隆)	P111
Kayaba Nobuyuki (萱場 互起)	D306	Maki Taichi (真木 太一)	D105	Nakagawa Kiyotaka (中川 清隆)	P112
Kayaba Satoko (茅場 聡子)	P192	Maki Takashi (真木 貴史)	C165	Nakahara Yuki (中原 勇希)	D202
Keyamura Yuriko (毛家村 友里子)	P397	Makino Toshiyuki (牧野 利行)	C107	Nakai Sento (中井 専人)	B351
Khatri Pradeep (khatri pradeep)	C365	Maksyutov Shamil (マクシュートフ シャミル)	C163	Nakai Sento (中井 専人)	B371
Kida Satoshi (木田 智史)	B115	Manago Naohiro (眞子 直弘)	C355	Nakajima Ko (中島 虹)	P306
Kikuchi Hiroshi (菊池 博史)	B116	Masaki Yoshimitsu (眞崎 良光)	P165	Nakajo Tomoyuki (中城 智之)	D304
Kikuchi Nobuhiro (菊地 信弘)	C153	Mashiko Wataru (益子 渉)	D167	Nakamura Haruna (中村 東奈)	C201
Kimura Yasunori (木村 恭徳)	P177	Masuda Aritoshi (増田 有俊)	B203	Nakamura Kazuki (中村 一樹)	B357
Kimura Yusuke (木村 祐輔)	P136	Masunaga Ryusuke (升永 竜介)	D109	Nakamura Kazuki (中村 一樹)	B359
Kinoshita Takenari (木下 武也)	C205	Masutomi Yuji (増富 祐司)	D359	Nakamura Kozo (中村 晃三)	D169
Kinouchi Kento (木ノ内 健人)	P121	Matoba Toru (的場 徹)	B211	Nakamura Shunsuke (中村 俊介)	P118
Kitabatake Naoko (北畠 尚子)	A110	Matsueda Hidekazu (松枝 秀和)	P327	Nakamura Yusuke (中村 祐輔)	P305
Kitamura Takeshi (北村 岳史)	P387	Matsui Aki (松井 亜貴)	P107	Nakano Yuko (中野 優子)	P385
Kitamura Yuji (北村 祐二)	D307	Matsuno Takeshi (松野 健)	D108	Nakatani Tsuyoshi (中谷 剛)	D365
Kobayashi Chiaki (小林 ちあき)	P173	Matsushita Hiroki (松下 拓樹)	B360	Nakayama Hideaki (中山 秀晃)	B356
Kobayashi Takahisa (小林 隆久)	A358	Matsushita Hiroki (松下 拓樹)	P198	Naoe Hiroaki (直江 寛明)	C206
Kobayashi Tetsuo (小林 哲夫)	D357	Mega Tomoaki (妻鹿 友昭)	P1a3	Nasuno Tomoe (那須野 智江)	A113
Kodera Kunihiko (小寺 邦彦)	C207	Michibata Takuro (道端 昀朗)	P167	Ninomiya Daiki (二宮 大輝)	P361
Koga Seizi (古賀 聖治)	P320	Michimoto Koichiro (道本 光一郎)	B104	Ninomiya Kozo (二宮 洸三)	B209
Koike Yudai (小池 雄大)	P342	Michimoto Koichiro (道本 光一郎)	D368	Nishi Akifumi (西 曉史)	P108
Komatsu Asami (小松 麻美)	B362	Miki Yurisa (三木 友梨紗)	P365	Nishi Noriyuki (西 憲敬)	P150
Komori Nobumasa (小守 信正)	B301	Mimura Kazuo (三村 和男)	A211	Nishikawa Hatsumi (西川 はつみ)	P344
Kondo Keiichi (近藤 圭一)	A203	Minda Haruya (民田 晴也)	C312	Nishikawa Masanori (西川 将典)	P1a1
Konishi Hiroyuki (小西 啓之)	P1a8	Mitsui Ayano (三井 文乃)	P113	Nishizawa Keiichi (西澤 慶一)	P364
Konno Shohei (紺野 祥平)	P188	Miyagawa Mayu (宮川 真友)	P122	Nitta Akira (新田 光)	B166
Kotani Ayumi (小谷 亜由美)	D351	Miyajima Takahiro (宮島 高弘)	P351	Niwa Yosuke (丹羽 洋介)	C164
Kotsuki Shunji (小槻 峻司)	A366	Miyamoto Ayumu (宮本 歩)	D309	Niwano Masashi (庭野 匡思)	D356
Kouda Junko (幸田 純子)	P350	Miyasaka Takafumi (宮坂 貴文)	P354	Noda Akira (野田 彰)	D312
Kouyama Toru (神山 徹)	B151	Miyazaki Kazuyuki (宮崎 和幸)	D215	Noda Satoshi (納多 哲史)	A301
Kubo Tatuya (久保 達哉)	P140	Miyazaki Risa (宮崎 理紗)	P391	Noguchi Katsuyuki (野口 克行)	B159
Kubota Hisayuki (久保田 尚之)	A109	Miyazaki Shin (宮崎 真)	D361	Noguchi Katsuyuki (野口 克行)	P3a4
Kubota Takuji (久保田 拓志)	A352	Mizuno Syota (水野 翔太)	P164	Noguchi Taisuke (納口 泰輔)	P329
Kuchiki Katsuyuki (朽木 勝幸)	P312	Mizutani Fumihiko (水谷 文彦)	B114	Nomura Mitsuharu (野村 光春)	P339
Kudo Rei (工藤 玲)	C364	Mori Keisuke (森 佳祐)	P105	Nomura Shohei (野村 渉平)	P125
Kumai Atsuki (熊井 暖陽)	P362	Mori Masato (森 正人)	A160	Norose Keiko (野呂瀬 敬子)	P337
Kume Atsushi (久米 篤)	C363	Morimoto Shotaro (森本 祥太郎)	P316	Nosaka Masaya (野坂 真也)	P359
Kunii Masaru (国井 勝)	D155	Morino Isamu (森野 勇)	C155		
Kunii Masaru (国井 勝)	D159	Moroda Yukie (諸田 雪江)	B218	< O >	
Kuribayashi Masatoshi (栗林 正俊)	D355	Moteki Nobuhiro (茂木 信宏)	P127	Obama Risa (小濱 里沙)	P322
Kurihara Kazuo (栗原 和夫)	A168	Motoyoshi Hiroki (本吉 弘岐)	P343	Obikawa Hiroki (帯川 裕基)	D353
Kuroda Tooru (黒田 徹)	D158	Murakami Masataka (村上 正隆)	D102	Oda Mayuko (小田 真祐子)	A201
Kuroda Yuhji (黒田 友二)	D311	Muraoka Hiroyuki (村岡 裕由)	C362	Odaka Masatsugu (小高 正嗣)	B160

Odaka Masatsugu (小高 正嗣)	B161	Sassa Koji (佐々 浩司)	A215	< T >	
Ogata Koto (緒方 香都)	B308	Sassa Koji (佐々 浩司)	C309	Taguchi Shoichi (田口 彰一)	C358
Ogihara Hirotaka (荻原 弘晃)	B158	Sato Eiichi (佐藤 英一)	B103	Taguchi Shoichi (田口 彰一)	D352
Ohata Tsuyoshi (大羽田 剛史)	C213	Sato Eiichi (佐藤 英一)	C310	Tajiri Takuya (田尻 拓也)	D101
Oh'izumi Mitsuo (大泉 三津夫)	P172	Sato Emi (佐藤 笑)	D113	Takagi Hiroshi (高木 宏志)	C166
Ohkawara Nozomu (大河原 望)	C359	Sato Kaori (佐藤 可織)	C106	Takagi Masahiro (高木 征弘)	B152
Ohno Yuichi (大野 裕一)	C306	Sato Naoki (佐藤 尚毅)	B303	Takagi Seiko (高木 聖子)	B154
Ohta Ayano (大田 彩乃)	D203	Sato Ryogo (佐藤 亮吾)	P308	Takagi Seiko (高木 聖子)	P194
Ohtake Hideaki (大竹 秀明)	P380	Sato Tomonori (佐藤 友徳)	P356	Takahashi Chiharu (高橋 千陽)	P153
Ohwaki Yoshio (大脇 良夫)	P141	Sato Yousuke (佐藤 陽祐)	D166	Takahashi Hiroshi (高橋 洋)	P178
Ohyama Hirofumi (大山 博史)	C162	Satoh Masaki (佐藤 正樹)	A212	Takahashi Hiroshi (高橋 洋)	P366
Oigawa Masanori (大井川 正憲)	P338	Satoh Shinsuke (佐藤 晋介)	B105	Takahashi Naoya (高橋 尚也)	D364
Oishi Satoru (大石 哲)	P131	Sawa Yousuke (澤 庸介)	P328	Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏)	B106
Oizumi Tsutao (大泉 伝)	D163	Sawada Masahiro (沢田 雅洋)	P149	Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏)	P134
Okabayashi Yusuke (岡林 裕介)	P114	Seiki Ayako (清水 亜矢子)	A105	Takahashi Tsuneya (高橋 庸哉)	A170
Okada Yasuko (岡田 靖子)	B213	Seiki Tatsuya (清木 達也)	A305	Takahata Wakana (高畑 若奈)	P393
Okajima Satoru (岡島 悟)	P175	Seino Naoko (清野 直子)	B207	Takakura Toshinari (高倉 寿成)	P152
Okamoto Hajime (岡本 創)	C104	Seki Takanori (関 隆則)	P186	Takane Yuya (高根 雄也)	P309
Okamoto Kozo (岡本 幸三)	A365	Sekiya Takashi (関谷 高志)	D207	Takasaki Yoshinori (高咲 良規)	B212
Okaze Tsubasa (大風 翼)	D308	Seko Hiromu (瀬古 弘)	D160	Takashima Hisahiro (高島 久洋)	P317
Okii Riko (沖 理子)	A351	Seko Hiromu (瀬古 弘)	P389	Takayabu Yukari (高薙 縁)	A363
Oku Yuichiro (奥 勇一郎)	A117	Seto Shinta (瀬戸 心太)	A354	Takemi Tetsuya (竹見 哲也)	B206
Onishi Masanori (大西 将徳)	B168	Seto Yoshihito (瀬戸 芳一)	P307	Takemura Kazushi (武村 一史)	P189
Ono Jun (小野 純)	P388	Sherriff-tadano Sam (シェリフ多田野 サム)	P369	Takeoka Haruka (竹岡 遼)	C109
Origuchi Seiji (折口 征二)	D162	Shibata Kiyotaka (柴田 清孝)	C208	Takigawa Yumi (瀧川 優実)	A159
Ose Tomoaki (尾瀬 智昭)	A307	Shibata Takashi (柴田 隆)	P126	Tanaka Akemi (田中 朱美)	P379
Oshima Kazuhiro (大島 和裕)	P346	Shido Fumitake (志藤 文武)	P103	Tanaka Hiroharu (田中 博春)	P386
Otaka Sanae (大高 早苗)	P336	Shigeta Yoshinori (重田 祥範)	P109	Tanaka Keita (田中 慶太)	D201
Otaki Kanji (大瀧 莞司)	P335	Shimada Masaki (島田 正樹)	P144	Tanaka Kenji (田中 健路)	P374
Otani Kazuo (大谷 和男)	P174	Shimada Teruhisa (島田 照久)	A169	Tanaka Kenta (田中 健太)	C105
Otobe Naohito (乙部 直人)	A209	Shimada Udaï (嶋田 宇大)	A115	Tanaka Masashi (田中 雅士)	A217
Otsuka Michiko (大塚 道子)	A206	Shimizu Osamu (清水 治)	P159	Tanaka Sho (田中 翔)	A155
Otsuka Shigenori (大塚 成徳)	D157	Shimizu Shingo (清水 慎吾)	P3a5	Tanoue Masahiro (田上 雅浩)	P196
Oyama Ryo (小山 亮)	P147	Shimose Kenichi (下瀬 健一)	B101	Tatsuyama Yasuaki (龍山 康朗)	D367
< P >		Shimozuma Tatsuya (下妻 達也)	A356	Terao Toru (寺尾 徹)	A101
Pan Xiaole (パン シャオレ)	P392	Shindo Eiki (新藤 永樹)	A303	Terao Yukio (寺尾 有希夫)	P395
Park Hotaek (朴 昊澤)	P169	Shiogama Hideo (塩竈 秀夫)	A161	Terasaki Koji (寺崎 康児)	A202
< S >		Shiraishi Koichi (白石 浩一)	P394	Tobase Yo (鳥羽瀬 世宇)	P383
Saeki Tazu (佐伯 田鶴)	D214	Shiraishi Shouji (白石 晶二)	D362	Tobo Yutaka (當房 豊)	D210
Sagawa Hideo (佐川 英夫)	B155	Shoji Yoshinori (小司 慎教)	P1a9	Tochimoto Eigo (栃本 英伍)	B216
Saigusa Nobuko (三枝 信子)	C361	Shoji Yoshinori (小司 慎教)	P3a9	Tokoro Yuka (所 悠香)	P314
Saito Atsushi (斉藤 淳志)	D360	Shomi Kei (塩見 慶)	C152	Tomikawa Yoshihiro (富川 喜弘)	C203
Saito Atsushi (斎藤 篤思)	P143	Shusse Yukari (出世 ゆかり)	P135	Toya Kohei (遠矢 康平)	P352
Saito Kazuo (斉藤 和雄)	D151	Someya Yu (染谷 有)	C158	Tsuboi Kazuhiro (坪井 一寛)	P323
Saito Masanori (齊藤 雅典)	C366	Sudo Kengo (須藤 健悟)	D221	Tsuboki Kazuhisa (坪木 和久)	D164
Saito Yoichi (齊藤 洋一)	D310	Sugimoto Shiori (杉本 志織)	D302	Tsuda Genki (津田 元気)	P133
Saitoh Naoko (齋藤 尚子)	C161	Sugimoto Shiori (杉本 志織)	P370	Tsuguti Hiroshige (津口 裕茂)	P137
Saitoh Taku (齋藤 琢)	P348	Sugita Takafumi (杉田 考史)	P324	Tsuji Hiroki (辻 宏樹)	P347
Sakai Tetsu (酒井 哲)	D205	Sugiyama Ko-ichiro (杉山 耕一朗)	B162	Tsuji Kentaro (辻 健太郎)	D216
Sakamaki Hiroshi (酒巻 洋)	P3a7	Sugiyama Ko-ichiro (杉山 耕一朗)	B163	Tsukijihara Takumi (築地原 匠)	B305
Sakamoto Hiroto (阪本 洋人)	D305	Sumi Yukari (角 ゆかり)	A108	Tsutsumi Yukitomo (堤 之智)	C360
Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊)	C210	Suzuki Chieko (鈴木 智恵子)	P378	< U >	
Sakuragi Tomoaki (櫻木 智明)	A111	Suzuki Hiroto (鈴木 博人)	P199	Uchino Osamu (内野 修)	D218
Sakurai Namiko (櫻井 南海子)	P341	Suzuki Kazue (鈴木 香寿恵)	P353	Uchiyama Akihiro (内山 明博)	C101
Sano Tetsuya (佐野 哲也)	B367	Suzuki Kenji (鈴木 賢士)	D103	Uchiyama Shoichiro (内山 庄一郎)	P1a0
Sasai Takahiro (佐々井 崇博)	A313	Suzuki Shin (鈴木 臣)	P130	Uchiyama Tsuneo (内山 常雄)	P156
Sasaki Hidetaka (佐々木 秀孝)	P372	Suzuki Shin-ichi (鈴木 真一)	B102	Udagawa Yusuke (宇田川 佑介)	P381
Sasaki Youhei (佐々木 洋平)	B165	Suzuki Shushi (鈴木 秀士)	A214	Ueda Hiroaki (植田 宏昭)	A152
		Suzuki Yuya (鈴木 悠也)	P138		

Uehara Shigeki (上原 盛希)	P3a6	Yamaguchi Munchiko (山口 宗彦)	A116	Yasunari Teppei J. (安成 哲平)	A156
Uekiyo Naotaka (上清 直隆)	A205	Yamaguchi Satoru (山口 悟)	D107	Yatagai Akiyo (谷田貝 亜紀代)	C211
Ukaji Kazuo (宇加治 一雄)	A208	Yamaguchi Satoru (山口 悟)	P358	Yokota Sho (横田 祥)	D153
< W >		Yamaji Moeka (山地 萌果)	P158	Yokota Tatsuya (横田 達也)	C151
Wakamatsu Shunya (若松 俊哉)	A311	Yamamoto Akira (山本 哲)	A213	Yokoyama Chie (横山 千恵)	P377
Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝)	B309	Yamamoto Masaru (山本 勝)	B153	Yokoyama Masaki (横山 正樹)	P368
Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝)	P333	Yamamoto Masaru (山本 勝)	P375	Yokoyama Tsuchimi (横山 土実)	P160
Watanabe Akira (渡邊 明)	D211	Yamamoto Masayuki (山本 真之)	P145	Yoshida Kohei (吉田 康平)	P170
Watanabe Masahiro (渡部 雅浩)	A151	Yamamoto Masayuki (山本 真之)	P3a1	Yoshida Ryuhei (吉田 龍平)	P101
Watanabe Shigeru (渡邊 茂)	P163	Yamamoto Munchisa (山本 宗尚)	P334	Yoshida Ryuhei (吉田 龍平)	P310
Watanabe Shunichi (渡邊 俊一)	B365	Yamashita Hiroshi (山下 寛)	D112	Yoshida Satoru (吉田 智)	B112
Watanabe Takeshi (渡邊 武志)	P313	Yamashita Katsuya (山下 克也)	B369	Yoshida Sho (吉田 翔)	B109
Watarai Yasushi (渡来 靖)	P110	Yamashita Katsuya (山下 克也)	P1a5	Yoshida Yukio (吉田 幸生)	C154
Wu Peiming (伍 培明)	A103	Yamashita Yousuke (山下 陽介)	P129	Yoshioka Hiroaki (吉岡 大秋)	A114
< Y >		Yamauchi Akira (山内 晃)	D110	Yoshioka Mayumi (吉岡 真由美)	B302
Yamada Daisuke (山田 大輔)	D354	Yamazaki Akihiro (山崎 明宏)	B202	Yoshizumi Youko (吉住 蓉子)	B366
Yamada Ken (山田 賢)	P181	Yamaura Tsuyoshi (山浦 剛)	P179	Yumimoto Keiya (弓本 桂也)	P319
Yamada Kyohei (山田 恭平)	C357	Yamazaki Akira (山崎 哲)	C354	Yumino Saori (弓野 沙織)	D301
Yamada Yoshinori (山田 芳則)	B204	Yamazaki Akira (山崎 哲)	B363	< Z >	
Yamagami Akio (山上 晃央)	P332	Yanase Atsushi (柳瀬 篤志)	P349	Zama Tatsuya (座間 達也)	C356
Yamaguchi Kosei (山口 弘誠)	P390	Yanase Wataru (柳瀬 亘)	B214		
		Yasuda Tamaki (安田 珠幾)	P157		
		Yasunaga Kazuaki (安永 数明)	A104		